



三重大学 学生総合支援センター

Student Support Center



2015年度
報告書



目次

I 学生総合支援センター

・組織図	01
・学生総合支援センター会議 委員名簿	02
・学生委員会 委員名簿	02

II 学生生活支援室

・活動報告	03
・奨学生数	05
・外国人留学生数	06
・入学料・授業料免除者数	08
・学生寄宿舍入寮許可状況	09
・学生教育研究災害障害保険・学生教育研究賠償責任保険加入者数	10
・クラブ・サークル一覧(体育系・文化系)	11
・第64回東海地区国立大学体育大会成績結果	13

III 障がい学生支援室

・活動報告	14
-------	----

IV 学生なんでも相談室

・活動報告	17
・学生なんでも相談室ニュースVol.4	20
・学生なんでも相談室ニュースVol.5	22

V キャリア支援センター

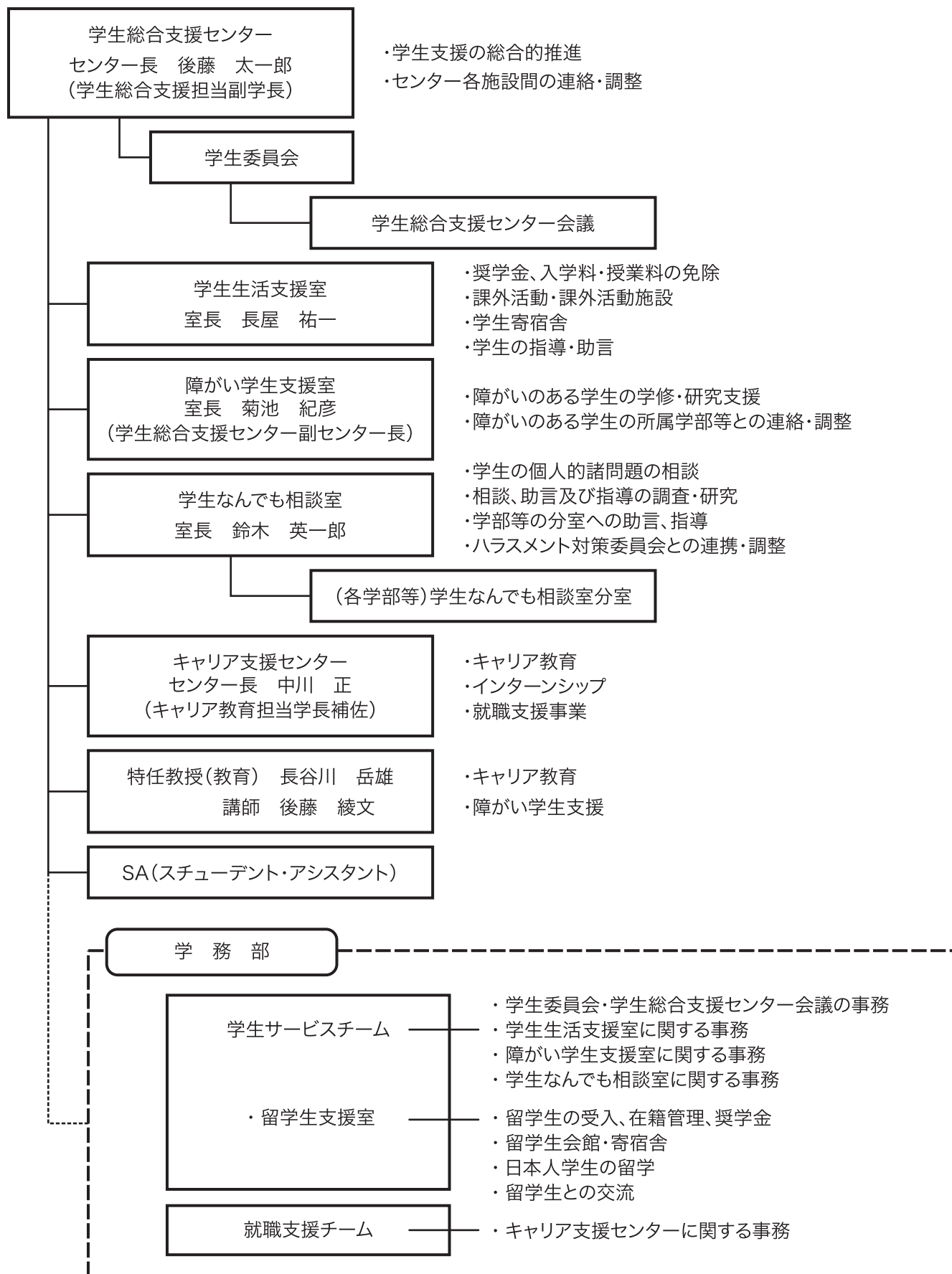
・活動報告	27
・就職状況	32

VI SA(スチューデント・アシスタント)

・取り組みをふりかえって	34
・キャリア・ピアサポーター資格取得ガイド	37

I 学生総合支援センター

平成27年度 学生総合支援センター 組織図



平成27年度 学生総合支援センター会議 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	後藤 太一郎	議長 学生総合支援担当 副学長
	障がい学生支援室長	菊池 紀彦	副センター長
	学生生活支援室長	長屋 祐一	
	学生なんでも相談室長	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター長	中川 正	
	学務部長	葛西 勇	
	講師	後藤 綾文	
陪席	学生サービス課長	清水 久己	
	学生サービスチーム副課長	研屋 元弘	
	留学生支援室長	奥山 眞由里	
	就職支援課長	東川 正朗	
	就職支援チーム副課長	河村 俊男	

平成27年度 学生委員会 委員名簿

		氏 名	備 考
委員	学生総合支援センター長	後藤 太一郎	委員長 学生総合支援担当副学長
	人文学部	北川 眞也	
	教育学部	宮岡 邦任	
	医学部	成田 有吾	
	工学研究科	岡崎 隆男	
	生物資源学研究科	取出 伸夫	
	保健管理センター	新保 秀人	
	国際交流センター	松岡 知津子	
	学生生活支援室	長屋 祐一	
	障がい学生支援室	菊池 紀彦	副委員長
	学生なんでも相談室	鈴木 英一郎	
	キャリア支援センター	中川 正	
	学務部長	葛西 勇	
陪席	学生サービス課長	清水 久己	
	学生サービスチーム副課長	研屋 元弘	
	留学生支援室長	奥山 眞由里	
	就職支援課長	東川 正朗	
	就職支援チーム副課長	河村 俊男	

Ⅱ 学生生活支援室

平成27年度 活動報告

1 全学オリエンテーションの開催

新入生を対象としたオリエンテーションを開催し、附属図書館や総合情報処理センター、学生なんでも相談室の利用方法、また、地震・津波等大規模災害時の対応方法、津警察生活安全課による交通マナーの遵守、未成年の飲酒防止、および違法薬物の乱用防止など学生生活を送るうえでの様々な危険を回避するための対応方法についてなど、様々な講話を行った。

2 学生相談や学生指導を担当する教職員を対象とした研修会(FD)の開催

12月に全学FD「SNSの現状と今後の対応について」を開催した。

3 上浜キャンパス自転車乗り入れ登録制の実施

学内外での自転車マナー向上を目指すとともに、違反者に対しては適切な指導を行うことができるようにするため、上浜キャンパスに乗り入れる学生の自転車に登録シールを貼付する自転車乗り入れ登録制を12月から実施した。

4 交通マナー等の向上

近隣の商業施設への無断駐車や、歩行者・自転車の通学マナーなどの問題について、これまで同様、注意喚起及び直接の対面指導という形で指導を実施していたが、今年度は定期的巡回指導、国道23号線江戸橋交差点付近での通学学生への交通指導、また、特に乱雑な駐輪により混雑した状況にあった教養教育校舎周辺区域での駐輪指導を集中的に行うなど、学生・教職員の協働によるマナー向上の取組により一定の効果を上げることができた。

また、環境ISO学生委員会と共同で学内の放置自転車を回収し、処分を行った。

5 未成年の飲酒等に対する学生指導

未成年飲酒防止シールの配布や毎月定例開催しているクラブ・サークル連絡会において未成年飲酒防止を周知徹底するとともに、7月に各クラブ・サークル部員に未成年飲酒防止の指導を依頼した。また、上記対応状況の調査を実施した。

6 クラブ・サークル活動関係

毎月クラブ・サークル連絡会を定例開催し、各種注意喚起、連絡を行った。

また、音楽系クラブ・サークルが12月から毎週水曜日の昼食時に翠陵会館大集会室で「ミニライブ」を5回開催した。

7 課外活動施設の改善及び備品等購入助成

* 熱中症対策	陸上競技場管理室エアコン更新、第1体育館扇風機購入(2台)
* 第1体育館	水銀灯取替、卓球台更新(2台)、排煙装置修理
* 第2体育館	フロアカーテン修理、ハンドボールゴール購入
* 弓道場(医学部)	照明器具等取替
* 陸上競技場	競技場除草剤散布(メリケントキンソウ駆除)、管理室屋外照明器具取替
* 陸上競技場周辺	周辺施設照明器具新設・取替、U字溝グレーチング購入
* プール	更衣室鳩対策ネット設置
* テニスコート	整地、ネットフェンス更新(西側半分)、照明灯取替、審判台更新(5台)
* 野球場	補修用砂・土補充、ベンチ排水管修理、ベース取替、フェンス修繕
* サッカー・ラグビー場	整地、サッカーゴール修理、ラグビーポール塗装、枯松伐採・撤去、ベンチ購入
* 馬場	補修用土補充
* 課外活動倉庫等	照明器具取替
* 男子合宿所	昼表替(A室38.5畳)
* 女子合宿所	天井修理
* 翠陵会館大集会室	パワーアンプスピーカーシステム購入
* 陸上競技部	ハードル購入
* アメリカンフットボール部	ワイヤレススポッターシステム更新
* 自動車部	エアーコンプレッサー更新
* ヨット部	救助艇船検更新・船底塗装
* 管弦楽団	楽器購入、スコア購入
* 吹奏楽団	楽器購入
* Hello FM!	ミキサー購入
* 消耗品購入	硬式野球部、アメフト部、ラグビー部、水泳部、卓球部、弓道部、自動車部、硬式テニス部、アチェリー部、トライアスロン部、軽音楽部他

平成27年度奨学生数

平成28年3月現在

区分 学部等		在学生数	日本学生支援機構			地方公共団体 民間育英団体	合計	在学生に 対する 百分率	
			第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	計				
学部	人 文 学 部	1,259	183	200	383	7	390	31.0%	
	教 育 学 部	862	128	161	289	2	291	33.8%	
	医 学 部	1,092	134	145	279	463	742	67.9%	
	工 学 部	1,853	268	283	551	11	562	30.3%	
	生 物 資 源 学 部	1,068	157	140	297	11	308	28.8%	
大学院	人 文 社 会 科 学 研 究 科		35	7	0	7	0	7	20.0%
	教 育 学 研 究 科		82	16	0	16	0	16	19.5%
	医 学 系 研 究 科	修士	56	5	1	6	0	6	10.7%
		博士	219	10	0	10	0	10	4.6%
	工 学 研 究 科	前期	457	170	13	183	0	183	40.0%
		後期	51	7	0	7	0	7	13.7%
	生 物 資 源 学 研 究 科	前期	180	51	7	58	1	59	32.8%
		後期	47	10	0	10	1	11	23.4%
	地 域 イ ノ ビ シ ョ ン 学 研 究 科	前期	19	2	0	2	0	2	10.5%
		後期	17	1	0	1	0	1	5.9%
計		7,297	1,149	950	2,099	496	2,595	35.6%	

平成27年度 学部別外国人留学生数 一覧表

11月1日現在

		人文学部	教育学部	医学部	工学部	生物資源 学部	地域イノベーション 学研究科	国際交流 センター	計
学部	正規	11(7)	12(11)		22(4)				45(22)
	非正規	43(28)	28(24)		10(4)	10(6)		34(28)	125(90)
計		54(35)	40(35)	0(0)	32(8)	10(6)	0(0)	34(28)	170(112)

修士	正規	11(7)	18(17)	5(3)	15(3)	29(14)	6(4)		84(48)
	非正規	11(7)	1(1)	1(1)	8(2)	4(2)			25(13)
計		22(14)	19(18)	6(4)	23(5)	33(16)	6(4)	0(0)	109(61)

博士	正規			16(7)	12(2)	25(10)	1(1)		54(20)
	非正規								0(0)
計		0(0)	0(0)	16(7)	12(2)	25(10)	1(1)	0(0)	54(20)

合計		76(49)	59(53)	22(11)	67(15)	68(32)	7(5)	34(28)	333(193)
----	--	--------	--------	--------	--------	--------	------	--------	----------

()内は、女子を内数で示す。

平成27年度 国籍別外国人留学生数 一覧表

35ヶ国・地域 333(193)

11月1日現在

国・地域			【学 部】		【大 学 院】		【国際交流センター】			計
			正規生	非正 規生	正規生	非正 規生	日本語・ 日本文化 研修生	日本語 研修生	特別聴 講生	
アジア	1	中国	31(13)	59(47)	66(42)	14(8)	2(2)		10(8)	182(120)
	2	インドネシア	1(1)		18(10)	1(1)				20(12)
	3	ベトナム	2(1)	4(2)	5(1)		1(1)		7(6)	19(11)
	4	タイ		4(4)	9(4)	1			2(2)	16(10)
	5	韓国	7(4)	1	5(2)					13(6)
	6	バングラデシュ			11(2)					11(2)
	7	アフガニスタン		2	7					9(0)
	8	台湾		4(3)		1			2(1)	7(4)
	9	マレーシア	3(3)		1					4(3)
	10	ミャンマー			3(1)					3(1)
	11	インド			1(1)					1(1)
	12	ブルネイ			1(1)					1(1)
	13	フィリピン						1(1)		1(1)
	14	ネパール			1(1)					1(1)
	15	カンボジア	1							1(0)
	16	フィジー			1					1(0)
	17	ラオス			1					1(0)
中東	18	イラク			1					1(0)
	19	トルコ			1					1(0)
アフリカ	20	エジプト		1	1					2(0)
	21	ガーナ			1(1)					1(1)
	22	マリ共和国			1(1)					1(1)
	23	ギニア						1		1(0)
	24	ガボン				1				1(0)
	25	ウガンダ		1						1(0)
北米	26	メキシコ		1(1)	1(1)					2(2)
	27	アメリカ合衆国							1(1)	1(1)
ヨーロッパ	28	ドイツ		7(3)		1	1		4(4)	13(7)
	29	フランス		1(1)	1	5(3)				7(4)
	30	ロシア		2					1(1)	3(1)
	31	セルビア			1		1(1)			2(1)
	32	スウェーデン		2						2(0)
	33	ハンガリー		1(1)						1(1)
	34	スペイン				1(1)				1(1)
	35	イギリス		1						1(0)
合 計			45(22)	91(62)	138(68)	25(13)	5(4)	(2)(1)	27(23)	333(193)
			136(84)		163(81)		34(28)			

()内は、女子を内数で示す。

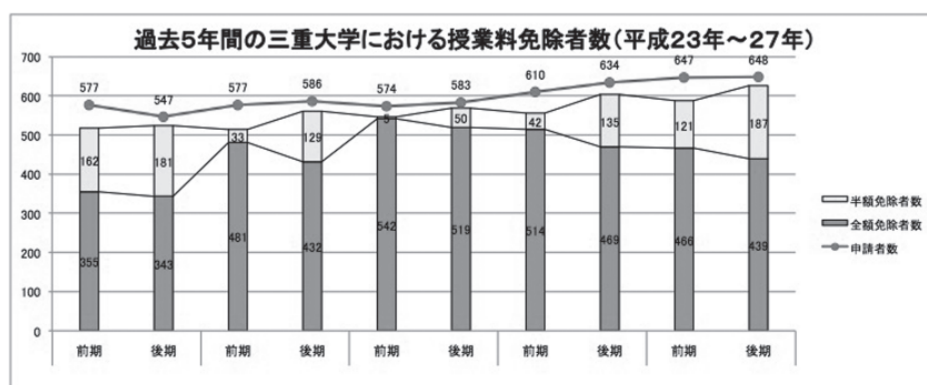
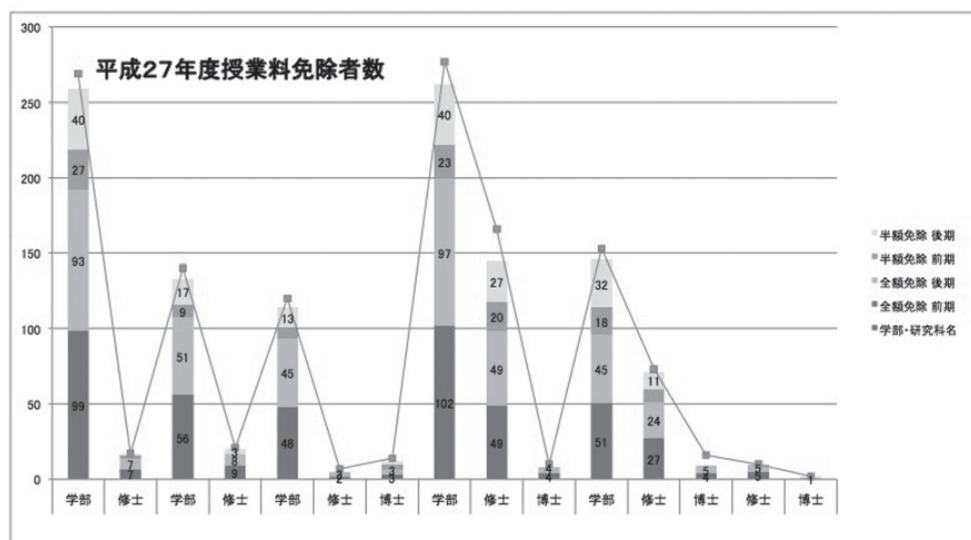
正規生 183(90)

非正規生 150(103)

平成27年度 入学料・授業料免除者数(学部・研究科別)

入学料免除				
学部・研究科名		免除申請者数	全額免除	半額免除
人文	学部	17	0	12
	修士	2	0	0
教育	学部	7	0	4
	修士	4	0	0
医学	学部	6	0	2
	修士	0	0	0
	博士	3	0	2
工学	学部	13	0	7
	博士前期	44	0	16
	博士後期	1	0	1
生物資源	学部	6	0	4
	博士前期	18	0	4
	博士後期	0	0	0
地域イノベ	博士前期	1	0	0
	博士後期	0	0	0
合 計		122	0	52

授業料免除		申請者数			全額免除		半額免除		免除者計	
学部・研究科名		前期	後期	合計	前期	後期	前期	後期	前期	後期
人文	学部	132	137	269	99	93	27	40	126	133
	修士	9	8	17	7	7	2	1	9	8
教育	学部	68	72	140	56	51	9	17	65	68
	修士	9	12	21	9	8	0	3	9	11
医学	学部	61	59	120	48	45	8	13	56	58
	修士	3	4	7	2	3	0	0	2	3
	博士	9	5	14	3	3	4	2	7	5
工学	学部	137	140	277	102	97	23	40	125	137
	博士前期	86	80	166	49	49	20	27	69	76
	博士後期	6	4	10	4	4	0	0	4	4
生物資源	学部	73	80	153	51	45	18	32	69	77
	博士前期	38	35	73	27	24	9	11	36	35
	博士後期	10	6	16	4	5	0	0	4	5
地域イノベ	博士前期	5	5	10	5	5	0	0	5	5
	博士後期	1	1	2	0	0	1	1	1	1
合 計		647	648	1,295	466	439	121	187	587	626



入寮許可状況報告書

男子学生寄宿舍

定員:109名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	41	48	35	

女子学生寄宿舍

定員:60名	募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	39	37	37	

国際女子学生寄宿舍

定員:日本人学生50名 留学生25名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	日本人学生	30	30	30	
	留学生	25	25	25	

留学生会館

定員:35室		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	单身室(30人)	2	3	2	チューターのみ募集
	夫婦室(5室)	4	3	2	

留学生寄宿舍A棟

定員:49名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	单身室(17人)	3	3	3	
	4人部屋(32人)	1	0	0	

留学生寄宿舍B棟

定員:35名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	单身室(35人)	2	4	2	

留学生寄宿舍C・D棟

定員:85名		募集人数	申請者数	許可者数	備考
平成27年度	单身室(29人)※	4	6	4	
	4人部屋(56人)	19	16	16	内RAF6名

※C棟の留学生用单身室は9部屋。C棟には他に研究者用单身室が6部屋ある。

平成27年度 学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険 加入者数

●学生教育研究災害傷害保険・学生教育研究賠償責任保険

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		283	193	68%
教育学部		209	151	72%
医学部		205	193	94%
工学部		415	318	77%
生物資源学部		253	181	72%
人文社会科学研究科		15	7	47%
教育学研究科		35	22	63%
医学系研究科	(博士課程)	54	22	41%
	(修士課程)	18	14	78%
工学研究科	(博士後期課程)	13	6	46%
	(博士前期課程)	217	117	54%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	16	14	88%
	(博士前期課程)	89	58	65%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	4	0	0%
	(博士前期課程)	10	8	80%
		1,836	1,304	71%

●学研災付帯学生生活総合保険

学部・研究科		入学者数	加入者数	加入率
人文学部		283	21	7%
教育学部		209	12	6%
医学部		205	47	23%
工学部		415	40	10%
生物資源学部		253	22	9%
人文社会科学研究科		15	0	0%
教育学研究科		35	0	0%
医学系研究科	(博士課程)	54	0	0%
	(修士課程)	18	0	0%
工学研究科	(博士後期課程)	13	0	0%
	(博士前期課程)	217	6	3%
生物資源学研究科	(博士後期課程)	16	0	0%
	(博士前期課程)	89	2	2%
地域イノベーション学研究科	(博士後期課程)	4	0	0%
	(博士前期課程)	10	0	0%
		1,836	150	8%

平成27年度 クラブ・サークル一覧

●体育系・全学

平成27年8月1日現在

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	陸上競技部	56	21	77	31	トライアスロン部	15	6	21
2	水泳部	27	12	39	32	応援団	38	42	80
3	硬式野球部	41	5	46	33	ロボコンクラブM3RC	14	0	14
4	準硬式野球部	28	6	34	34	BLUE MARINE(スキndaイビング)	30	17	47
5	サッカー部	27	5	32	35	バスケットボール同好会	17	11	28
6	ラグビー部	28	7	35	36	パルデラマ(フットサル)	44	14	58
7	アメリカンフットボール部	34	16	50	37	スキューバダイビングサークル	31	12	43
8	馬術部	11	17	28	38	天狗う(よさこいサークル)	20	25	45
9	硬式テニス部	18	6	24	39	サイクリングサークル	7	1	8
10	ソフトテニス部	30	11	41	40	まいのり(テニス・バトミントン)	14	7	21
11	ハンドボール部	18	5	23	41	ラインブレイク(釣り・アウトドア)	21	6	27
12	バレーボール部	12	18	30	42	蹴る!シューマツハ(サッカー)	48	8	56
13	バスケットボール部	16	12	28	43	極津(よさこい)	0	60	60
14	バトミントン部	18	7	25	44	ひらめ(バトミントンサークル)	30	20	50
15	卓球部	23	9	32	45	WILL(テニス)	29	7	36
16	体操競技部	3	0	3	46	二代目MARIMO(球技サークル)	60	9	69
17	ダンス部	11	21	32	47	合気研究会	3	3	6
18	柔道部	2	0	2	48	テコンドー部	25	1	26
19	剣道部	24	11	35	49	ハンドボールサークル	15	13	28
20	空手道部	3	2	5	50	Wild Geese(アウトドア)	95	60	155
21	少林寺拳法部	6	1	7	51	日本拳法部	3	4	7
22	合気道部	5	6	11	52	ジャグリアーノ(ジャグリングサークル、大道芸)	59	22	81
23	ワンダーフォーゲル部	9	3	12	53	すまっしゅ(卓球)	23	7	30
24	ゴルフ部	13	0	13	54	フラメンコサークル OLE!	1	12	13
25	弓道部	9	5	14	55	鳥人間サークル Pa-Tan!!	5	5	10
26	洋弓部	19	2	21	56	合気道・武の道	4	5	9
27	ヨット部	9	4	13	57	NEXT(ダンス)	13	19	32
28	ボート部(休部)	0	0	0	58	Links(ソフトテニス)	27	9	36
29	端艇部(カッター部)	12	3	15	59	電気自動車研究会	6	0	6
30	自動車部	19	0	19	60	SSK snow boarding	5	3	8

●体育系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	サッカー部	37	17	54	10	バドミントン部	29	33	62
2	医水野球部	15	11	26	11	バレーボール部	20	29	49
3	陸上競技部	24	30	54	12	卓球部	45	32	77
4	ゴルフ部	33	20	53	13	剣道部	27	23	50
5	ラグビー部	21	17	38	14	弓道部	23	32	55
6	ハンドボール部	24	17	41	15	空手道部	9	7	16
7	ソフトテニス部	19	23	42	16	競技スキー部	9	8	17
8	硬式テニス部	33	55	88	17	水泳部	8	2	10
9	バスケットボール部	18	17	35	18	山岳部	0	10	10

●文化系・全学

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	管弦楽団	13	54	67	31	落語研究会	2	0	2
2	吹奏楽団	16	38	54	32	Transfer(編入生対象)	76	25	101
3	ギターマンドリンクラブ	11	22	33	33	SOLA(天文サークル)	38	19	57
4	ギタークラブ	10	9	19	34	BBS(教育ボランティア)	14	56	70
5	邦楽部	1	10	11	35	ぶるさぁ。(アンザンブルサークル)	18	42	60
6	室内楽団	2	14	16	36	聖書研究会	1	2	3
7	写真部	15	18	33	37	Pioneer(アカペラ)	49	55	104
8	合唱団	26	21	47	38	みえ・シネマ・アーカイブ	10	9	19
9	美術部	8	11	19	39	ユネスコクラブ	2	3	5
10	漫画倶楽部	38	23	61	40	アンビシャスカード(マジック)	46	8	54
11	ESS	47	38	85	41	DUEL(カードゲームサークル)	12	0	12
12	軽音楽部	46	16	62	42	DTMサークルJack	13	1	14
13	ジョイア(学習支援ボランティア)	2	6	8	43	STRAT(ボランティア)	5	2	7
14	人形劇団つくし	1	6	7	44	MUS-net(災害ボランティア)	3	12	15
15	ピアノ同好会(KLUB KLAVIER)	14	27	41	45	食農サークル 農らく	11	5	16
16	表千家茶道部	2	16	18	46	てらこや(国際交流サークル)	8	12	20
17	裏千家茶道部	1	21	22	47	K.A.F(森林ボランティア)	6	6	12
18	TRPG同好会(旧SF研究会)	17	1	18	48	ビッスモサークル	5	1	6
19	リカゲル(創作活動サークル)	34	24	58	49	しろちどり(手芸サークル)	3	11	14
20	囲碁・将棋部	20	0	20	50	Meiku [メイク(地域おこし)]	13	31	44
21	HELLO FM!	16	7	23	51	つくしんぼサークル(子供ボランティア)	10	52	62
22	ヴァンパイア(献血推進サークル)	7	4	11	52	FRre STyLe(ボランティア)	37	36	73
23	エレクトーンサークル23-tow・three-	11	12	23	53	クッキングアシスト	9	14	23
24	万葉旅行の会	13	5	18	54	mil-poa(アクセサリ作成)	0	11	11
25	Bb [Brass band(楽器演奏)]	16	7	23	55	カフェ・サークル Le Lien	14	13	27
26	かめっぶり	32	23	55	56	Mie University Jazz Messengers	5	4	9
27	書道サークル(心太)	5	4	9	57	TGJ 津学生情報室	6	14	20
28	劇団クレスト(演劇)	3	10	13	58	三重大学放送局	2	2	4
29	卓上文化研究会	7	2	9	59	取材クラブ「Beans」	4	0	4
30	ねこサークル	42	44	86	60	学生 mini Ted 交流会	2	2	4

●文化系・医学部

	クラブ名	男	女	計		クラブ名	男	女	計
1	美術部	8	12	20	8	子どもと一緒に小児医療を考える会	7	9	16
2	東洋医学研究会	16	15	31	9	BJ -よき医療者をめざす会-	43	10	53
3	軽音楽部	20	24	44	10	みえぬいぐるみ病院	8	11	19
4	セッションサークル BAG	33	33	66	11	MIE-project	7	12	19
5	きゅうめい部	29	47	76	12	小児科ボランティア ぞくよん	30	45	75
6	MIT	5	19	24	13	MUSH(Mie University Students Helper)	12	17	29
7	U-cam	5	11	16					

第64回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

①日時 平成27年5月16日(土)・17日(日)、30日(土)・31日(日)
6月13日(土)・14日(日)、20日(土)・21日(日)、27日(土)・28日(日)
7月4日(土)・5日(日)、11日(土)・12日(日)

②場所 パロマ瑞穂スタジアム他19会場

③幹事大学 名古屋工業大学

④成績

(男子)

競技種目	大学名	三重大 順位	名工大 順位	豊技大 順位	静岡大 順位	浜医大 順位	愛教大 順位	名古屋大 順位	岐阜大 順位	備考
1 陸上競技		2	6	8	4	7	1	3	5	
2 水泳		3	6	8	4	7	5	1	2	
3 硬式野球										1日目オープン競技、 2日目雨天中止
4 準硬式野球		3	5	3	5	2	1	5	5	3位、4位区別なし、 5位以下順位なし
5 硬式テニス		3	2	4	1	7	5		6	
6 ソフトテニス		3	5	6	4	8	1	7	2	
7 バスケットボール		3	1	4	6		5	-	2	名大不参加(委員会後)
8 バレーボール		5	6	7	3		1	4	2	
9 卓球		1	6	-	5		4	3	2	豊技大不参加(委員会後)
10 バドミントン		5	6	4	1	8	2	7	3	
11 サッカー		4	6	7	5	2	3	1	-	岐阜大不参加(委員会後)
12 ハンドボール		6	4		5		2	3	1	
13 柔道		-	-	5	3		4	2	1	名工大、 三重大不参加(委員会後)
14 剣道		7	6	8	4	5	2	3	1	
15 空手道		4	-	-	2	6	3	1	5	名工大、 豊技大不参加(委員会後)
16 弓道		6	5	7	2	3		1	4	
17 体操		-	5		3		4	2	1	三重大不参加(委員会後)
18 馬術		1	3		4		2	4	4	4位以下順位なし
19 アーチェリー		3			4		2	1	5	
20 少林寺拳法		2			1		4		3	
男子順位		5	6	8	3	7	1	3	2	

(女子)

競技種目	大学名	三重大 順位	名工大 順位	豊技大 順位	静岡大 順位	浜医大 順位	愛教大 順位	名古屋大 順位	岐阜大 順位	備考
1 陸上競技		4	-		2	6	1	3	5	名工大不参加(委員会後)
2 水泳		6	7		4	5	1	3	2	
5 硬式テニス		4			1	3	2		5	
6 ソフトテニス		3	4		2	7	6	1	5	
7 バスケットボール		4			1		2	-	3	名古屋大不参加(委員会後)
8 バレーボール		3	5				1	4	2	
9 卓球		5	6		3		4	2	1	
10 バドミントン		1	5		4	7	3	6	2	
12 ハンドボール										オープン競技
13 柔道				-	2		-	1	3	豊技大、 愛教大不参加(委員会後)
14 剣道		2	-		4	5	6	3	1	名工大不参加(委員会後)
15 空手道		2			4	1	6	5	3	
16 弓道		3	5	7	6	2		4	1	
17 体操					3		2	-	1	名大不参加(委員会後)
19 アーチェリー					3		1	4	2	
20 少林寺拳法										オープン競技、 団体戦成立せず
女子順位		4	7	8	2	6	3	4	1	

Ⅲ 障がい学生支援室

平成27年度 活動報告

障がい学生支援室長 菊池 紀彦

1 障がいのある学生に対する相談支援

(1) 授業や学生生活に関する相談支援

重複障がい学生、肢体不自由学生、高次脳機能障がい学生、発達障がい疑われる学生の相談支援を実施

(2) 修学前相談

平成28年度入学が決まった発達障がい学生、内部障がい学生への事前相談を実施

2 支援学生の養成

(1) 教養教育授業「障がい学生支援実践」の実施

- ①ユニバーサルデザインについて(三重県健康福祉部地域福祉課職員)
- ②聴覚障がいについて(三重県聴覚障害者協会常務理事、聴覚障害要約筆者)
- ③視覚障がいについて(NPO法人アイパートナー視覚障害者生活訓練等指導員)
- ④発達障がいについて(本学教育学部教員)
- ⑤日本福祉大学における障がい学生支援の取組について(日本福祉大学職員)
- ⑥本学定型業務等運営・支援センターキャンパス環境整備室職員との交流
- ⑦アカデミックフェアで学びの成果についての発表

3 学生主体による障がい学生支援の推進

(1) ピアサポート学生、障がい学生、教員参加による交流会(コレクション自慢の会)の実施(平成27年6月1日)

(2) 障がい学生支援実践を受講した学生(14名)による大学近隣の小中学校(3校)における授業支援(平成27年6月～平成28年3月)

(3) 障がい学生支援室サポーターの募集(平成28年3月～)

4 学内における理解・啓発活動

(1) 障がい学生が在籍する学部教職員との連携・情報交換

(2) 障がい学生支援セミナーの実施「障害者差別解消法と合理的配慮のある社会」(教職員・学生を対象、平成28年3月18日)

5 学外関係機関との連携

(1) 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク(PEPNet-Japan)地域ネットワーク形成支援事業事業委員として活動(平成27年4月～平成28年3月)

(2) 東海地区障がい学生支援担当者会の実施(平成27年12月1日)

→東海地区の国公立私立の7大学が参加し、障がい学生支援にかかる情報交換

6 情報発信

(1) 障がい学生支援室ホームページのリニューアル

→学生向け、教職員向け、受験者向け、障がい学生支援室サポーターの募集

<http://www.mie-u.ac.jp/life/supportstudents/index.html>

7 三重大学教育GPにおける障がい学生支援の取組(平成26年度～平成27年度)

障がい学生支援室では、平成26年度～平成27年度の2年間、三重大学教育GPを取得し、本学における障がい学生支援のあり方についての検討を行った。以下は、2年間の取組についての報告である。

(1)取組の名称

障害学生支援に関する学生委員会の創設と学内リソースを活用した社会貢献活動の展開

(2)取組の趣旨・目的

近年、高等教育機関において障害学生が多数在籍するようになった。本学においても身体障害や発達障害のある学生が在籍し、教職員や学生の支援を受けながら学生生活を送っている。教育学部特別支援教育講座と学生総合支援センター障がい学生支援室は、障害学生が充実した大学生活を送ることができるよう、全学FDの開催や、授業において支援技術を学ぶ機会の提供、支援のコーディネートを実施してきた。

今後もこうした取組を充実させていきたいと考えているが、障害学生が在籍し、支援のニーズがある限りは、授業を受講した学生に対し、教職員が支援の依頼を行えば良い。ところが、障害学生の卒業等により支援のニーズが無くなると、授業で修得した知識や支援スキルを活かす場が失われてしまう。また、授業は毎年履修学生が替わるため、学年をまたぐ学生同士の縦のつながりができにくい。こうした問題を解決し、切れ目の無い障害学生支援の体制を維持し、発展させていくためには、授業という枠組みを基盤としつつも、学生が主体的に活動できるような体制の在り方や、授業で得た知識や支援スキルを活用する場を模索していくことが必要であると思われる。

以上のような理由により、本取組は、(1)学生自身が主体的に活動できるような組織づくりの支援、(2)学内外における障害児(者)に対する社会貢献活動の展開、の2点を目的とする。

(3)取組状況

①学生自身が主体的に活動できるような組織づくりの支援

i.障がい学生支援実践の開講

様々な障害を理解し、支援するための実践的な授業や、キャンパス環境整備室職員との交流を行った。授業のまとめとしてアカデミックフェアにおいて学びの成果を発表した。

ii.先駆的取組を実施する大学の視察

平成26年11月に札幌学院大学を視察した。札幌学院大学では、学生によるバリアフリー委員会が組織されていた。バリアフリー委員会は、支援学生、障害学生が加入し、障害学生が自ら講師となって支援の在り方についての講習が行われていた。

iii.東海地区障害学生高等教育支援交流会(日本福祉大学)への参加

開催された交流会に学生5名を引率して参加し、他大学の障害学生、支援学生とのグループワーク、意見交換を行った。

iv.障害学生との交流会(コレクション自慢の会)の実施

平成27年6月にピア・サポーター学生委員会を中心とした障害学生との交流会を実施した。交流会の内容は、学生と教員が自ら好きなものやコレクションを持参し、思うままに語るものとした。

②学内外における障害児(者)に対する社会貢献活動の展開

i.大学近隣の小中学校における授業支援

平成27年6月から平成28年3月までの間、障がい学生支援実践を受講した学生(14名)が、週に1度の割合で小中学校3校の特別支援学級、普通学級を訪問し、障害のある児童生徒の授業支援を行った。

ii.三重大学教員免許状更新講習委員会との連携

障害のある教員が受講する場合の支援のあり方や協力体制のあり方について、委員長および事務担当者と協議を行った。

③その他の取組

i.平成27年2月に東海地区の国公立私立大学との共催で「東海地区障害学生支援担当教職員研修会」を開催した。また、平成27年12月には、本学を会場に「東海地区障がい学生支援担当者会」を開催した。

ii.教職員の理解・啓発を目的とした障がい学生支援セミナー(全学FD)を開催した。平成26年度は「発達障害に対する適切な支援のあり方」(講師:東北文化学園大学、平野幹雄先生)というテーマで実施した。平成27年度は「障害者差別解消法と合理的配慮のある社会」(講師:DPI日本会議／内閣府障害者制度改革担当室、尾上浩二先生)というテーマで実施した。

iii.三重県教育委員会との連携

平成26年11月に三重県教育委員会事務局主催の高等学校等特別支援コーディネーター等連絡会において、研修会講師を務めるとともに進学に関する情報交換を行った。

iv.障害学生が在籍する学部教職員や、出身高校の特別支援教育コーディネーターと適宜情報交換を行った。

(4)取組の成果

①学生自身が主体的に活動できるような組織作りの支援

札幌学院大学視察の報告や東海地区障害学生高等教育支援交流会の参加から、「障がい学生支援実践」のまとめにおいて、「障害のある学生が、本学で学ぶ上で困難が生じる場面を考え、その解決のために学生同士がどのような行動を取ると良いか」について議論を行い、解決策・支援策を提示させた。学生からは、「障害の有無にかかわらず、誰でも参加できる交流会などの企画実施」「学生中心で障害学生を支援する組織の発足」「障害者について考える授業の必修化」「障害理解に関する広報活動」などの解決策・支援策などが出された。

学生からの提案を踏まえ、平成27年6月にピア・サポーター学生委員会を中心とした障害学生との交流会(コレクション自慢の会)を実施した。参加者は学生9名と教員6名であった。参加者の中には身体障害のある学生、対人関係・コミュニケーションの苦手な学生等がいたため、教員の一人は交流会全体のファシリテーターとして会全体の様子をみるように務めた。学生と教員はそれぞれのコレクションを見せ合い、語り合うことを通して、学生は仲間として互いを知ることができ、障害学生支援に関わる教員を身近に感じる契機となる交流会となった。参加学生からは、次回のコレクションの会についての企画も提案された。

②学生自身が主体的に活動できるような組織作りの支援

大学近隣の小中学校における授業支援について、小中学校の担当教員からは学習支援や生活支援により児童生徒が落ち着いて学校生活を送ることができたとの声が聞かれた。活動を通して、児童生徒一人ひとりの実態に応じ、困り感に基づいた支援を展開し、支援を通して児童生徒との信頼関係を築くことができたと考える。しかしながら一方で、「支援を行う時の『待つ』ことの難しさ」「児童生徒の心情に配慮した支援の難しさ」「共に学ぶ児童生徒の障害に対する理解と学び合いの難しさ」についての課題が浮かび上がった。

教員免許状更新講習委員会との連携では、委員長および事務担当者と協議を行い、「特別な配慮を要する受講者への支援に関する申し合わせ」を定めた。具体的には、「障害のある受講者が不利益を被ることのないよう、更新講習の運営に実施・協力すること」「講習資料等の作成に協力すること」等を確認した。なお、平成27年度は、視覚障害のある教員が1名受講したものの、本人から申し出がなかったため支援を実施しなかった。

(5)今後の計画

障害学生支援体制の整備・拡充を進めていくために、以下の3点を実施する。(1)教職員に対する障害学生支援の理解・啓発:障害者差別解消法の教職員対応要領における留意事項について、関係部署や障害当事者等を交えて検証を行い、加筆・修正すべき点について提言する。全学FDを引き続き実施する。障害学生や支援学生とともに学内バリアフリーマップの作成を行う。(2)障害学生と支援学生のつながり・コミュニティの形成:障害学生のセルフアドボカシーを涵養するための取組を実施する。具体的にはピア・サポーター学生委員会を中心とした「コレクション自慢の会」を継続実施し、学生同士の支え合いの場をつくる。(3)教員免許状更新講習委員会との連携:障害のある教員から支援の申し出があった場合の対応(講習補助、資料作成等)を行う。

8 業績等

後藤綾文・菊池紀彦(2016)障がい学生支援推進に向けての取組ー三重大学における現状と課題ー。
三重大学教育学部研究紀要,67,293-299.

Ⅳ 学生なんでも相談室

平成27年度 活動報告

学生なんでも相談室長 鈴木 英一郎

1 相談・援助活動

(1) 来談者に関する統計

	新規相談受付						案内	Co.による 継続面接	その他の 継続対応	合計
	教育	心理	進路	生活	その他	合計				
4月	6	6	5	2	1	20	114	22	38	194
5月	4	8	2	2	1	17	49	36	46	148
6月	6	12	3	1	0	22	54	44	58	178
7月	2	4	0	1	1	8	31	38	18	95
8月	2	4	0	1	0	7	20	47	24	98
9月	4	2	1	0	0	7	30	15	41	93
10月	1	7	1	0	0	9	19	36	61	125
11月	3	8	1	0	0	12	30	36	50	128
12月	4	3	1	1	0	9	28	39	39	115
1月	7	6	1	0	0	14	33	47	64	158
2月	2	1	0	0	2	5	12	35	56	108
3月	3	1	2	0	0	6	17	32	54	109
合計	44	62	17	8	5	136	437	427	549	1549

※数字はいずれも延べ人数を示す。

※「Co.」は心理カウンセラーを指す。

※「新規相談受付」件数の「その他」は、心理テスト・箱庭療法体験、分類困難な相談等の総数を示す。

※「案内」は事務的な案内や比較的軽微な相談等、およびピアサポーターによる相談対応件数の総数を示す。

※「その他の継続対応」は、主にCo.による担当事例に関する面接室外のケースワーク活動等の総数を示す。

(2) ピアサポーターによる相談活動

① 新入生交流会「サポ太's cafe」

4月2日、6日、7日(ピアサポートルーム)

② なんでも相談企画

春期

※面談型(総合研究棟Ⅱ 1階):4月2日、4月6日、4月7日、4月20日～23日

夏期

※面談型(環境情報科学館【七夕イベント時】):7月7日

※相談カード投稿型(環境情報科学館1階、翠陵会館1階、共通教育棟1号館1階)

7月21日～7月27日(投稿期間)、7月24日～8月6日(掲示期間)

③ 就活支援イベント

※就活カフェ(環境情報科学館【就活を終えた先輩学生による就活相談窓口】):12月11日

2 教育・広報活動

(1) 教育活動

①授業の担当(いずれも鈴木によるもの)

教養教育 前期	「ピアサポート実践」※副担当に後藤綾文講師(障がい学生支援室)
教養教育(教職) 前期	「教育相談Ⅱ」
教養教育 後期	「こころのサポート」
教養教育 後期	「ピアサポート実践」※主担当は後藤綾文講師(障がい学生支援室)
教養教育 後期	「学生生活支援実践」
教育学部 後期	「心理的問題解決論」

(2) 広報活動

①教職員研修(FD・SD)

教養教育機構FD

講演「困難を抱える学生との接し方」(平成27年12月24日)

講演「最近の学生と接する上で注意したいこと」(平成28年2月24日)

②広報

- ・新入生に対する相談室PRカードの配布
- ・来談促進用ポスターの作成と掲示
- ・教職員を対象としたニュースレター(メールマガジン)の作成と配信

3 研究活動

(1) シンポジウム・パネルディスカッション

- ・IDE大学協会(Institute for Development of Higher Education)東海支部
平成27年度IDE大学セミナー「学生の学修支援とメンタルヘルス」(平成27年8月25日)
パネルディスカッションに鈴木(話題提供者)が登壇。

4 大学・地域連携

(1) 講演・研修

- ・公益社団法人三重県看護協会 三重県保健師助産師看護師実習指導者講習会 講師
平成27年9月15日(鈴木)
- ・日本学生相談学会 第52回全国学生相談研修会
分科会B4「芸術療法を学生相談に活かす」講師
平成27年11月15日～11月17日(鈴木)

5 研修

- ・日本学生相談学会第33回大会(広島)(平成27年5月16日～18日)に鈴木が参加。

平成27年度 スタッフ

室長	鈴木 英一郎(学生総合支援センター 助教)	カウンセラー	川島 一晃(非常勤)
アドバイザー	白石 泰三(医学部医学科 教授)		藤川 和(非常勤)
インターカー	浮田 めぐみ(事務補佐員)		牧野 勢津子(非常勤)
			イレエネ・ビューフリ・内田(非常勤)

◆ 目次 ◆

1. 相談室利用状況から
2. 大学生の自殺予防について
- 3.【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)
- 4.【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言!
5. お知らせ

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、大変ありがとうございます。

2012年度より当相談室にて発行しておりますニュースレター「学生なんでも相談室ニュース」ですが、前号に続き、今回もメールマガジン形式でお届けすることに致しました。相談室の利用状況や学生対応をいただく際に有用な情報などをご紹介しますと考えております。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、年間に1、2回程度の発行予定ですので、ぜひご高覧いただければと存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

1 相談室利用状況から

● H22からH26(直近5年間)における各月の新規相談受付件数(平均)

	教育	心理	進路	生活
4月	4.0	7.6	2.8	0.6
5月	2.2	4.2	0.8	0.4
6月	3.2	4.0	1.8	1.2
7月	1.4	4.0	1.0	1.0
10月	3.2	5.2	1.2	0.6
11月	1.8	3.0	0.6	0.8
12月	3.0	3.0	0.6	0.6
1月	3.0	1.6	1.8	0.6

※8、9、2、3月は省略。

上記の表は、平成22年度から平成26年度(直近の5年間)における各月ごとの新規に受け付けた相談件数※の平均を示しています。

これを見ると、全体的にも「教育相談」(主に修学環境にまつわる相談)と「心理相談」(主に心身の不調や対人関係にまつわる相談)の件数が多い傾向があるのですが、特に「心理相談」については、4月、10月にその相談件数が増える傾向にあることが分かります。

4月、10月は、いずれも長期休み明けで新学期を迎える時期です。つまり、長期休み中には一旦先送りすることができた心理的問題に対しても、改めて直面せざるを得なくなり、その結果、不安定になる学生が多いのではないかと想像します。また、そうした学生のうち、実際に相談室を自発的に利用できる学生はごく一部だと考えます。よって、先生方が授業や研究指導の中で出会われる学生の中で、様子がおかしいと思われる学生がいれば、まずは早めに声掛けいただけるとありがたいと存じます。

また、日々の声掛けに対する反応が、学生の不調を知るための最も手軽なサインだと考えることもできます。学生の様子に関わらず、可能な範囲で、周囲の学生に対する声掛けをまずは意識していただければ幸いです。

※この「新規受付件数」は、あくまで当該月中に新規に相談受付を行った件数を示しています。今回はその数字を提示しておりませんが、実際はその後、多くのケースでカウンセラーによる継続的な相談に移行しているのが現状です。

2 大学生の自殺予防について

警察庁発表のデータによれば、2012年に自殺者数が15年ぶりに3万人を下回って以降、少なくとも昨年度までは減少傾向にあるようですが、20代を中心とする若い世代の自殺率は依然として高い水準にあります。

2006年に施行された自殺対策基本法では、国による自殺対策の総合的な推進により、国民が健康で生きがいを持って暮らすことのできる社会の実現を目指しています。また、学校を含む関係者の相互の密接な連携による自殺対策が重視されており、大学等の高等教育機関においても自殺防止に貢献することが求められています。

今回は、学生の自殺防止のために、大学および一人一人の教職員に求められることを考える機会として、自殺や自傷行為に関連した文献をいくつかご紹介いたします。よろしければご参考ください。

◎「学生の自殺防止のためのガイドライン」 日本学生相談学会

<http://www.gakuseisodan.com/?p=1409>

※学生の自殺防止のために大学としてどんな取組が必要なのか、について、コンパクトに整理されています。

上記リンク先(学会webページ)よりPDFでダウンロードできますので、まずはこれをご一読いただけましたら幸いです。

◎「教師が知っておきたい子どもの自殺予防」 文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/046/gaiyou/1259186.htm

※文科省が中学・高校の教員向けにまとめた自殺予防に関するマニュアルですが、若年層が自殺に至る心理や対応上の留意点など大変参考になる内容です。上記リンク先(文科省webページ)よりPDFで章ごとにダウンロードできます。

◎「もしも『死にたい』と言われたら：自殺リスクの評価と対応」

松本俊彦 著 中外医学社

<http://www.chugaiigaku.jp/item/detail.php?id=1706>

◎「自分を傷つけずにはいられない：自傷から回復するためのヒント」

松本俊彦 著 講談社

<http://bookclub.kodansha.co.jp/product?isbn=9784062193160>

3 【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)

連載企画として、毎回「学生対応ガイドブック(第2版)」(三重大学学生総合支援センター、2009)より、先生方が日常的に学生対応をされる際のご参考にしていただけたような内容を抜粋して紹介いたします。

●長期欠席(単位未修得)の学生に関わる時

〈事例〉

担任をしている学生から、「A君が最近学校に来ておらず、連絡がとれない。」と相談を受けました。周囲の先生方にも様子を聞いてみると、確かに、少なくともここ1か月ほどは他の授業にも出席していないことが分かってきました。A君の実家は遠方で、普段はこちらで下宿生活をしているため、日常的な彼の様子を把握している人がおらず、とても心配です。

〈対応と経過〉

早速、A君の携帯電話に連絡を入れましたが応答がありません。そのため、家族に電話して現状を伝え、「心配しているので一度連絡をして欲しい」と本人へも伝えてもらうことにしました。後日、A君から「学校に行かなくては思っているのに、朝になると起きられず授業に出られない」とメールが来ました。面談の提案を試みましたが、大学に出てくこと自体が困難であるとのことでしたので、「何か困っていることや心配なことがあれば、メールでも構いませんので、

いつでも相談に乗ります」と返信しました。それから、何度かメールをやり取りする中で「進級して専門科目の授業が多くなり、本当に自分が勉強したかった内容なのか、また自分に適性があるのか、分からなくなった」「もともと受験の時からこの学科を選択することに迷いはあった。授業も難しくなって、ただ出席をしているだけでは理解できなくなり、そのうちに朝起きられず、昼過ぎまで寝ている生活になってしまった」ということが、彼の話から明らかになってきました。また、現状の生活については、完全に引き籠っているという訳ではなく、アルバイトには行けているようでした。さらには、朝方まで起きてパソコンやゲームをしているため昼夜逆転の傾向があるようでしたが睡眠自体はとれており、食欲も以前と変わらないということが分かりました。そこで、「専門科目の授業を難しく感じて戸惑う学生は意外と多く、A君だけではない」ということを伝え、授業の分からないところに対して具体的にどのようなサポートが可能かという案をいくつか示しました。また、今の学科にはどのような研究室があつて、どのような研究をしていけるのか、その中にA君が興味を持てそうなものはあるか、情報を提供して一緒に検討しました。さらに、受験の時に選択を迷ったもう一方の学科についても調べて、転学科や編入の可能性や手続きについても説明しました。そのような関わりを通して、A君にも少しずつ変化がみられるようになり、まずは生活リズムを整えて、単位の取得しやすいものから一つでも授業に出てみようという気持ちになり始めたとのことです。

〈解説〉

①早めに学生と連絡をとり、情報収集をします。

どの程度の欠席状況から「長期欠席」と判断するのかは微妙なところですが、上記の事例のように、1か月も誰もその学生の状況を把握できていないというのは、学生支援という面から見れば、少し危険な状況ではないかと考えます。担当されている学生がこのような状況にあることが分かった場合には、早めに一度当該学生に連絡を取っていただいて、状況を確認していただければ幸いです。

しかし、中には呼び出しても応答の無い学生もあり、どの程度、あるいはどのように関わったらよいのか、判断に迷うケースもあります。それぞれのケースによって長期欠席に至った経緯は様々に考えられますが、共通しているのはどこかで「このままで良いのか」「どうしたら良いのか」という不安を抱えているということです。

友人や家族を通して情報を収集しながら連絡をとり、いつでも相談にのる準備があることを伝えてあげてください。

②学生の状態を把握し、具体的なアドバイスをしてあげてください。

長期に欠席している学生の中には、数カ月以上にわたって自宅や自室に閉じこもっているケースもあれば、授業には出席できなくてもバイトやサークルには活発に参加できているケースもあります。そのような学生の状況から、問題の重篤度や緊急性、精神疾患の可能性を見極める必要がありますが、まずは、呼び出しに応じることができ、かつエネルギーが感じられる学生であれば、丁寧に話を聞いてあげてください。どのような理由から授業に出席できなくなってしまったのか、学生なりに思いや考えがあることと思いますので、それを十分に受け止めていただいた上で、必要な情報を提示したり、具体的な問題解決のアドバイスをしていただけると、学生にとっても心強く感じられることでしょう。

③こんな場合には相談室をご利用ください。

引きこもりの状態が長期にわたる場合や、呼び出しには応じるものの学生にエネルギーが感じられない場合、またそもそも呼び出しにも応じずどうやって今後の対応をしたらよいかわからない場合などは、学生なんでも相談室までご相談ください。また、当相談室では、ご家族からのご相談も承っておりますので、対応に困っておられる保護者の方にも、適宜相談室の利用を勧めていただければと存じます。

※この項は、三重大学学生総合支援センター(2009)「三重大学学生対応ガイドブック」p.29-31. に掲載された内容に一部加筆修正を行ったものです。

4【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言！

連載企画として、毎回「先生からこんな言葉をかけてもらえたのが嬉しかった」、「あの時の先生のこんな言葉で支えられた」というような本学における学生の体験を、ピアサポーター学生委員会の協力のもと収集して、順次紹介しております。

●「この調子で頑張って！…こんな感じで良いよね(笑)。」

〈理由〉

成績配付で先生の研究室を訪れた時に、特に単位の取得状況に問題があった訳でもなく、わざわざ先生から話すことも無いような状況だった。そんな中で、無理して何か良い言葉をかけようという訳でもなく、良い意味で“いい加減”で“適当”で“雑な”感じで言ってくれたのが嬉しかった。先生とフランクに気兼ねなく接することができる関係でいるんだと思えて、安心感を感じられたんだと思う。(学部4年)

⇒先生方からすれば、これは(特に修学上問題の無いような学生の場合には)大した意味の無いやり取りに感じられるかもしれませんが、学生たちにとって、先生と直接に接触することができる数少ない場であります。また、昨今の学生たちは、先生方が考えておられる以上に、身近な大人として、先生方とのフランクな関係や雑談の機会を求めているようです。

確かに、このような関係性が日常的にあれば、現時点では問題の無い学生であっても、いざという時には先生を相談相手として認識してくれることによって、結果的にも速やかに問題の初期対応に繋がることも考えられます。上記の学生が述べているように、現時点ではさほど問題の無い学生との間でも、ある程度フランクな関係でいられるよう意識をしていただければ幸いです。

5 お知らせ

★学生なんでも相談室は「学生」だけが相談できる場所、ではありません！

もちろん、三重大生の日々の生活の中で起こる困りごとや悩みごとの相談がメイン業務ではありますが、学生の対応に際し、お困りになられている教員、職員、保護者の方のご相談も承っております。どうぞ気軽にご利用ください。

★学生理解、または学生対応に関する各種講演、FDも承っております。

これまでも、学生対応に関する総論的な留意点の解説をはじめ、不登校、発達障がい、留年を繰り返す学生、ハラスメント問題等のテーマでの講演のご依頼を各部局からいただきました。ご用命がございましたら、学生なんでも相談室までご連絡ください。

◆このメール内容についてのお問い合わせはこちらまでお寄せください。

E-Mail : sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このメールに掲載されている全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright (C) 2015 三重大学学生総合支援センター 学生なんでも相談室. All Rights Reserved.

学生なんでも相談室ニュース Vol.5

2016/3/31発行

◆ 目次 ◆

1. 相談室利用状況から
2. 大学生の発達障がいについて (Vol.3より再掲)
- 3.【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)
- 4.【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言！
5. お知らせ

先生方におかれましては、日頃より学生なんでも相談室の活動にご理解、ご支援をいただき、大変ありがとうございます。

2012年度より当相談室にて発行しておりますニュースレター「学生なんでも相談室ニュース」ですが、第3号よりメールマガジン形式でお届けしております。これからも、相談室の利用状況や学生対応をいただく際に有用な情報などをご紹介しますしていきたいと考えております。

ご多忙の折、大変恐縮ですが、年間に1, 2回程度の発行予定ですので、ぜひご高覧いただければと存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。

1 相談室利用状況から

●発達障害のある(またはその可能性を否定できない)学生からの相談件数

	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期
平成25年度	49(9)	29(8)	44(10)	34(8)
平成26年度	50(13)	72(12)	76(2)	78(3)
平成27年度	87(24)	131(15)	134(10)	76(6)

※カッコ内は実人数です。 ※平成27年度1～3月期の数字は2月20日現在のものです。

成人期の広汎性発達障害(米国精神医学会による診断基準の改訂に伴い、近年は「自閉スペクトラム症」と記載されることが多い)の有病率は、軽度なものも含めれば、およそ1%程度とされています。そこから単純計算をすれば、三重大学においても70～80人程度在学している可能性があると言えます。もちろん、あくまで単純計算をすれば、というお話ですし、いずれにしてもその全てが学生生活において不適応を起こしている訳ではないでしょうから、その全員が相談室を利用すべき、と考えるのは乱暴なお話でしょう。

ただ、実人数に比して、延べ相談件数が大きな数字になっているところを見ると、少なくとも相談室で関わっているケースの多くでは、継続的なサポートが求められているということも言えるのではないかと考えます。

さて、発達障害の支援ということに関しては、必ずしも「障害程度の重篤さ」イコール「不適応の深刻さ」というわけではありません。もちろん、両者には一定の相関関係があることも否めませんが、実際はいかに周囲がその当該学生を受け入れる環境を準備することができるか、が当事者の適応のためのとても大きな要素になっていると考えます。つまり、比較的軽篤な学生であっても、周りのサポートを上手に受けることができれば、さほど支障をきたすことなく適応することも可能でしょう。一方で、障害程度は軽微であっても周囲のサポートが上手く機能していなければ、それだけ不適応を起こすリスクも上がることでしょう。

端的に言えば、「周囲の環境に適応できない当事者の問題」として考えるのではなく、「当事者が適応できないような周囲の環境に改善の余地がある」という考え方をしてみると、効果的なサポートを検討する入口になるのではないのでしょうか。

※表にある各期の「実人数」は、あくまで当該期毎にカウントしておりますので、必ずしもその合計値が年間の来談者の実人数とイコールになる訳ではありません(よって、その合計値は実際の年間の実人数より多くなることになります)。

2 大学生の発達障害について

いよいよこの4月より「障害者差別解消法」が施行されることになり、障害者に対する「差別的取扱いの禁止」と「合理的配慮の不提供の禁止」が、国及び地方公共団体等においては法的義務として課されることになります。国立大学法人である本学も例外ではなく、特に、障害特性に応じた合理的配慮という点においては、今後先生方が日常的にされている授業や学生指導のスタイルにも大きく影響を及ぼすことが想像されます。

そこで、今回は本メルマガvol.3(昨年度)でご紹介いたしました「発達障害」に関する文献のご紹介を再掲することに致しました。先生方にも改めてご関心を持っていただけたら幸いです。

(一部、以前掲載した内容からの修正や文献の入れ替わりもございますが、ご了承ください)

近年、大学における「発達障害」の学生への対応が盛んに議論されるようになりました。大学生に見られる発達障害としては、①自閉スペクトラム症(ASD)②注意欠如・多動症(ADHD)③限局性学習症(LD)などが挙げられますが、いずれも、生まれつき、あるいはごく早期からもっている特徴で、その根本的な部分はあまり変化なく終生続くものとされています。そのため、その特徴を考慮した上で、周囲が適切な対応(修学指導・修学支援)をすることが求められています。

その特徴の把握、対応方法については、近年様々な文献が出版されております。その幾つかについて、以下にご紹介いたしますので、よろしければご参考ください。また、実際にそのような可能性を持った学生のご対応に苦慮されている先生がおられましたら、気軽にご相談いただければと存じます。

◎「発達障害学生への理解と対応について—学生相談からの提言—」 日本学生相談学会

<http://www.gakuseisodan.com/?p=1782>

※全国の大学の学生相談領域の研究者やカウンセラーによるこれまでの知見や経験を基にまとめられた発達障害学生への対応を検討する上でのガイドラインです。要点が大変コンパクトに整理されておりますので、まずはこれをご一読いただけましたら幸いです。

※上記リンク先(学会webページ)よりPDFでダウンロードできます。

◎「Q&A 大学生のアスペルガー症候群—理解と支援を進めるためのガイドブック」

福田真也 著 明石書店

<http://www.akashi.co.jp/book/b67012.html>

◎「ぼくらの中の発達障害(ちくまプリマー新書)」

青木省三 著 筑摩書房

<http://www.chikumashobo.co.jp/product/9784480688927/>

◎「発達障害のある大学生のキャンパスライフサポートブック」

大学・本人・家族にできること(学研のヒューマンケアブックス)」

高橋知音 著 学研教育出版

<http://hon.gakken.jp/book/1340532400>

◎「教職員のための障害学生修学支援ガイド」(平成26年度改訂版) 日本学生支援機構

http://www.jasso.go.jp/gakusei/tokubetsu_shien/guide_kyouzai/guide/index.html

※上記リンク先(「日本学生支援機構」webページ)よりPDFでダウンロードできます。

3 【連載】学生対応の注意点(「三重大学学生対応ガイドブック」より)

連載企画として、毎回「学生対応ガイドブック(第2版)」(三重大学学生総合支援センター、2009)より、先生方が日常的に学生対応をされる際のご参考にしていただけたような内容を抜粋して紹介いたします。

●「ある先生から嫌がらせを受けた」という相談を受ける時

〈事例〉

同じ学科の同僚であるA教員が指導担当をしている学生Bが思いつめたような表情で相談に来ました。現在、A教員の指導のもとで卒業論文を作成しているが、A教員からの暴言や嫌がらせに困っていると言います。なんでも、卒論テーマを絞り込むことについて全く相談に乗ってもらえず、痺れを切らして自分でテーマを選定したところ、「そんな勝手なことをして良いと思っているのか!お前程度の知識で何ができるんだ!」と激しく罵倒されたそうです。またそれ以来、実験の進め方について相談に行っても全く取り合ってもらえないし、実験器具なども貸してもらえない。これでは実験が進められず卒業できない。」と話しているうちに泣き出してしまいました。

〈対応と経過〉

辛い状況の中でよくこれまで頑張ってきたね、とその労をねぎらい、自分が学科長や学部長にも対応を相談してみることに、Bさんから了解を得ました。また、Bさんの「もうA先生とはやっていけないので、別の先生の下で指導を受けたい」という希望を受けて、学科長や学部長とも相談し、A教員も了解の上で、所属研究室の変更を行いました。またA教員にはBさんに対して今後関わりを持たないことを約束してもらいました。

新しい研究室はこれまでの領域とも比較的近い分野であり、Bさんはこれまで取り組んできたテーマを概ね引き継ぎながら、なんとか卒業論文をまとめて卒業していききました。

〈解説〉

- ①話をきちんと聞き、被害の有無や大小について勝手な判断をしない。

同僚教員のハラスメント行為というのは、にわかに信じがたいことではありますが、客観的な「事実」や「現実」にこだわりすぎると、せっかく相談に来た学生の気持ちをないがしろにしてしまう恐れがあります。たださえ、学生は相談することによる不利益や関係者間でのみ消しなどを不安に感じているはずです。語られる内容や状況がどのようなものであれ、少なくとも学生にとっては実際に感じられた「事実」や「現実」に他なりません。まずは、話しづらい内容を語ろうとしている勇気やこれまでの苦労をねぎらいながら、じっくり話を聞いてあげましょう。

このように、気持ちを落ち着かせたり整理したりするためにも、当該学生本人に状況を語ってもらう（相談する）ことは重要な意味があります。しかし一方で、出来事について無理に語らせようとすると、本人の混乱を助長してしまうようなケースもあります。特に、セクハラ事例など被害内容が深刻な場合には、本人の状態にもよりますが、基本的には、どこまでのことを聞いても大丈夫なのか、本人に確認しながら話を進める方が良いでしょう。また、ご自身にとって、その場で語られる内容を受け入れられる準備（気持ちの余裕など）があるかどうかについても考慮する必要があるでしょう。ご自身で対応するのが難しいと判断される場合には、学生なんでも相談室までご相談をいただければと存じます。

- ②当該学生がどのような対処（介入）を望んでいるのかを第一に考える。

他大学では、相談を受けた教職員が、良かれと思い自分の勝手な判断で、被害学生の意志不在のままに対応を進めてしまったことに対して法的なトラブルになったケースもあります。「当該教員への対処」や「学生自身に対する処遇」などについて、学生本人の希望を明確にしておきましょう。当該教員の懲戒を求めるような案件なのであれば、やはり「ハラスメント」事案として全学レベルの対応が求められることになりますし、研究室異動などの希望に留まる場合には、学部レベルでの検討で収められるかもしれません。いずれにしても、対処の判断のための最優先事項として、学生の希望をきちんと確認する必要があるでしょう。その上で、その希望に対してこちらが取ろうとしている手段についてもきちんと了解を得た上で行う必要があるでしょう。

- ③普段からハラスメント問題に対する学部および全学での対応の流れを把握しておく。

学生のみならず、相談を受ける教職員の側も、このような相談を受けた時には緊張し、不安を感じてしまうものです。普段から、このような案件が発生した際に学部や学科内ではどのようなルートで検討されるのか、また誰に相談することができるのか、あるいは全学の場合はどうか、などについて把握しておくことが良いでしょう。特に、相談の中に登場する関係者のいずれかのご自身が利害関係にあるような場合には、ご自身のご負担とならないよう、できるだけ他の適切な教職員（ハラスメント相談員など）にお任せいただく方が賢明です。また、『国立大学法人三重大学ハラスメントの防止及び対策に関するガイドライン』（下記のリンク先参照）に目を通していただいたり、学内で催されるハラスメント防止研修会等にも積極的に参加していただいたりするなど、このような問題への対処について、日頃から関心を持っていただければ幸いです。

＊『国立大学法人三重大学ハラスメントの防止及び対策に関するガイドライン』

[http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/kisoku/act/frame /frame110000160.htm](http://www.mie-u.ac.jp/gakunai/kisoku/act/frame/frame110000160.htm)

（学内限定コンテンツです）

※この項は、三重大学学生総合支援センター（2009）「三重大学学生対応ガイドブック」p.35-37. に掲載された内容に一部加筆修正を行ったものです。

※事例は相談室に実際に持ち込まれた相談を基に構成した架空のものです。

4【連載】学生が先生に言われて嬉しかった一言！

連載企画として、毎回「先生からこんな言葉をかけてもらえたのが嬉しかった」、「あの時の先生のこんな言葉で支えられた」というような本学における学生の体験を、ピアサポーター学生委員会の協力のもと収集して、順次紹介しております。

●「なかなか苦労してるね。」

〈理由〉

授業でグループ作業をしている時にあまり周りに協力してもらえなくて、でもひたむきに頑張っていたら、授業後に先生からこの一言をもらえて嬉しかったです。自分が苦労していることを誰かがちゃんと気付いてくれていると知って、報われた気持ちになりました。(学部3年)

⇒グループ作業というのは実はとても難しい課題ではないかと考えます。質・量に関するメンバー間の作業の均一化までは介入しづらいですし、その結果、相対的に負担が大きくなった学生にとっては、自分だけが損をしているかのような認識になってしまいがちです。よって、グループの作業を効果的かつ効率的に進めてもらうためには、何らかの形でこうしたメンバーへの“メンテナンス”を行っていくことも不可欠だと考えられます。

とはいえ、それがこの程度の声掛けであったとしても、先生方の思いはちゃんと伝わっていくようです。やはり、授業場面で気になる学生を見かけられましたら、何らかの形で一言でもお声掛けをいただけると幸いです。

5 お知らせ

★学生なんでも相談室は「学生」だけが相談できる場所、ではありません！

もちろん、三重大生の日々の生活の中で起こる困りごとや悩みごとの相談がメイン業務ではありますが、学生の対応に際し、お困りになられている教員、職員、保護者の方のご相談も承っております。どうぞ気軽にご利用ください。

★学生理解、または学生対応に関する各種講演、FDも承っております。

これまでも、学生対応に関する総論的な留意点の解説をはじめ、不登校、発達障がい、留年を繰り返す学生、ハラスメント問題等のテーマでの講演のご依頼を各部局からいただきました。ご用命がございましたら、学生なんでも相談室までご連絡ください。

◆このメール内容についてのお問い合わせはこちらまでお寄せください。

E-Mail : sodan@ab.mie-u.ac.jp

◆このメールに掲載されている全ての記事、文章等の無断転載を禁止します。

Copyright (C) 2016 三重大学学生総合支援センター 学生なんでも相談室. All Rights Reserved.

V キャリア支援センター

平成27年度活動報告

1 キャリア教育

【平成27年度開講 教養教育 キャリア教育領域一覧】

科目群	授業科目	単位	授業テーマ	担当教員	開講時期		履修者数	
					前期	後期	前期	後期
学生支援	留学生支援実践 (国際理解実践S)	2単位	留学生支援実践	後藤 綾文	-	水9・10	-	21(15)
	障がい学生支援実践 (現代社会理解実践S)	2単位	障がい学生支援実践	菊池 紀彦 他	-	火3・4	-	26(20)
	ピアサポート実践	2単位	ピアサポート実践	鈴木 英一郎	金9・10	-	4	-
		2単位	ピアサポート実践	後藤 綾文	-	金9・10	-	5
	学生生活支援実践	2単位	学生生活支援活動実践	鈴木 英一郎	-	水5・6	-	8
	学習支援実践	2単位	学習支援実践A	長濱 文与 他	木7・8	-	0	-
		2単位	学習支援実践B	後藤 綾文	水9・10	-	9	-
	広報実践	2単位	広報誌編集実践	村上 克介	-	木7・8	-	11
		2単位	大学紹介実践	後藤 綾文	-	金3・4	-	28
就業力育成	キャリアプランニング	2単位	キャリアプランニング	長谷川 岳雄	月9・10	-	109	-
		2単位			-	火9・10	-	27
		2単位	インターンシップ		水9・10	-	8	-
		2単位	キャリアイベント実践		-	水9・10	-	7
	キャリア形成	2単位	キャリア形成		火5・6	-	18	-
		2単位	仕事・社会を知る		-	月9・10	-	9
	アントレプレナー論 (日本理解特殊講義S)	2単位	起業マインドの醸成	山根 栄次	金9・10	-	10(29)	-
	地域と仕事 (日本理解特殊講義S)	2単位	地域の仕事を知る	西村 訓弘 他	月7・8	-	92(60)	-
	社会連携型実践	2単位	社会連携型実践A	西村 訓弘 他	-	月7・8	-	7
	知財学	2単位	発明・知財学入門	松岡 守 他	-	火9・10	-	6
心的援助・マネジメント	こころのサポート (こころのサポート)	2単位	こころのサポート	鈴木 英一郎	-	月7・8	-	28(53)
		2単位	こころのサポート	後藤 綾文	水5・6	-	20(115)	-
		2単位	こころのサポート	望木 郁代	木5・6	-	1(54)	-
		2単位	こころのサポート		-	木5・6	-	8(47)
	A-Iポジティブ思考法 (心理学S)	2単位	A-Iポジティブ思考法	川島 一晃	月7・8	-	17(39)	-
		2単位	A-Iポジティブ思考法		-	月7・8	-	21(25)
		2単位	A-Iポジティブ思考法	後藤 綾文	金3・4	-	9(55)	-

2 インターンシップ

【所属別・学年別参加者数】

所属	学部生					大学院生			合計
	1年	2年	3年	4年	小計	修士	博士	小計	
人文学部	6	3	84	1	94	2		2	96
教育学部	1	1	28	2	32			0	32
医学部					0			0	0
工学部		3	55	5	63	21		21	84
生物資源学部	25	28	60	7	120	13	2	15	135
地域イノベーション学研究科	－	－	－	－	0	12		12	12
合計	32	35	227	15	309	48	2	50	359

○企業等受入数 164機関

○インターンシップ事前・事後研修会を開催

〈事前研修会〉

- ・平成27年5月9日(土)13:00～17:30 講堂大ホール他
- ・参加学生数 497人

〈事後研修会〉

- ・平成27年10月28日(水)16:30～18:30 講堂小ホール
- ・参加学生数 78人

3 就職活動支援

(1)就職ガイダンス

- ・平成27年4月～平成28年3月 23回実施 講堂大ホール他
- ・参加学生数 延べ 7,633人

参加数	NO.	実施月	開催日	開催時間	ガイダンス	場所	講師	対象
125	1	4月	22日(水)	16:30～18:30	これで面接マスター！ －面接スタートに向けて－	講堂大ホール	リクルート キャリア	4年、M2年
277	2	4月	22日(水)	13:30～15:00	就活スケジュール等、 就職活動について全般 (就活手帳配布)	講堂大ホール	マイナビ	3年、M1年
299			24日(金)	16:30～18:00				
148 98	3	5月	13日(水)	13:00～14:30 16:30～18:00	公務員試験対策説明会	講堂小ホール	大学生協	公務員志望者
271	4	6月	10日(水)	16:30～18:00	職務適正検査および 業界・企業・職種説明	講堂大ホール	ディスコ	3年、M1年

参加数	NO.	実施月	開催日	開催時間	ガイダンス	場所	講師	対象
83	5	6月	24日(水)	16:30~18:00	面接で避けて通れない”時事問題” 一日経の徹底活用で完璧な 時事対策ー	メディアホール	日経メディア プロモーション	3年、M1年
41	6	7月	8日(水)	13:00~15:00 16:30~18:30	ワーク型!企業研究	メディアホール	ディスコ	3年、M1年
24	7	7月	15日(水)	13:30~15:00	企業代表に“求める人材”について 聞いてみよう!ー人材育成塾ー	メディアホール	株式会社マスヤ 浜田代表 取締役社長	全学部、 全学年
682	8	10月	10日(土)	10:30~12:30	保護者向け「就職活動」についての 説明会	講堂すべて	リクルート キャリア	3年、M1年 (学生・保護者)
151	9	10月	14日(水)	16:30~18:00	筆記(SPI)試験対策	講堂小ホール	リクルート キャリア	3年、M1年
10	10	10月	23日(金)	13:00~17:00	就職相談会!	メディアホール	キャリア 支援センター、 就職情報会社	4年、M2年
318	11	11月	11日(水)	16:30~18:00	16卒の就職戦線から知る、 17卒就活必勝法!!	講堂大ホール	マイナビ	3年、M1年
95	12	11月	18日(水)	16:30~18:30	業界研究セミナーー異業種5社に よるパネルディスカッションー	講堂小ホール	キャリア 支援センター	3年、M1年
125	13	11月	25日(水)	13:30~16:00	先輩に聞く就活の仕方	講堂小ホール ・ホワイエ	キャリア 支援センター	3年、M1年 (低学年含む)
40	14	11月	27日(金)	16:30~18:30	ワーク型!エントリーシート対策 ー自己PR編ー	メディアホール	キャリア 支援センター	3年、M1年
38 45		12月	2日(水)	13:00~15:00 16:30~18:30				
14	15	12月	9日(水)	16:30~18:00	就職活動前に知っておくこと・ やるべきこと	メディアホール	リクルート キャリア	1年・2年
38	16	12月	11日(金)	16:30~18:30	ワーク型!エントリーシート対策 ー志望動機編ー	メディアホール	キャリア 支援センター	3年、M1年
30 42			16日(水)	13:00~15:00 16:30~18:30				
41	17	1月	8日(金)	16:30~18:30	実践!グループディスカッション	メディアホール	ダイヤモンド・ ヒューマン リソース	3年、M1年
44 45			13日(水)	13:00~15:00 16:30~18:30				
379 (1部 → 192)	18	1月	20日(水)	15:30~16:20	労働の基礎知識教えます! ー働くとはー	講堂大ホール	三重労働局	3年、M1年
	19		20日(水)	16:30~18:00	就職活動に向けた、 就活テクニック伝えます!	講堂大ホール	マイナビ	3年、M1年
163	20	1月	27日(水)	13:00~16:45	公務員の業務説明会	講堂小ホール ・ホワイエ	キャリア 支援センター	3年、M1年 (低学年含む)
256	21	2月	15日(水)	13:30~16:45	面接対策、人事採用担当者 パネルディスカッション	講堂大ホール	マイナビ・リク ルートキャリア	3年、M1年
178	22	3月	8日(火)	10:30~12:00 13:30~15:00	学内企業説明会まわり方講座	講堂小ホール	学内企業説明 会委託会社	3年、M1年
3533	23	3月	14日(月) ~ 18日(金)	9:30~17:30	学内企業説明会	講堂すべて	就職情報会社 委託	3年、M1年

(2)ミニ講座(少人数制:個人面接・集団面接・グループディスカッション対策等)

- ・平成27年4月～平成28年3月 21回実施 セミナー室 他
- ・参加学生数 延べ110人

	実施日	内容	参加数
1	4/10	集団面接対策	10
2	4/17	個人面接対策	6
3	5/15	集団面接対策	4
4	5/20	個人面接対策	5
5	5/27	個人面接対策	5
6	6/2	個人面接対策	5
7	6/8	個人面接対策	4
8	6/12	個人面接対策	5
9	6/19	個人面接対策	5
10	6/26	個人面接対策	5
11	7/13	集団討論(グループディスカッション)	7
12	7/13	個人面接対策	4
13	7/16	個人面接対策	4
14	7/23	集団討論(グループディスカッション)	6
15	7/23	個人面接対策	5
16	7/31	個人面接対策	5
17	8/3	個人面接対策	3
18	10/15	集団面接対策	2
19	2/26	グループディスカッション	8
20	2/29	集団面接対策	6
21	3/10	グループディスカッション	6
計			110

(3)就職相談

・キャリア・カウンセラー就職相談〔就職相談コーナー〕

【月別・相談内容別件数】

	就職相談	進路決定 相談	内定・内定 の相談	履歴書 作成	エントリー シート作成	志望動機	自己PR	面接	メンタル 面	自己分析	その他	合計
4月	18	4	3	21	138	8	6	48	0	0	10	256
5月	16	3	14	8	89	3	2	63	0	0	5	203
6月	14	1	18	4	81	8	1	79	1	1	6	214
7月	16	3	14	5	36	3	3	105	0	0	6	191
8月	14	3	13	2	12	2	1	41	0	0	3	91
9月	11	0	16	7	15	3	1	36	0	0	2	91
10月	24	5	4	7	14	3	2	57	0	0	1	117
11月	20	4	6	0	25	2	5	22	0	0	0	84
12月	22	2	4	2	17	2	7	9	0	0	4	69
1月	24	3	1	3	22	1	16	12	0	0	5	87
2月	17	5	0	3	39	1	24	15	0	2	0	106
3月	21	3	0	10	87	2	11	24	0	0	0	158
合計	217	36	93	72	575	38	79	511	1	3	42	1667

4 キャリア・ピアサポーター

○平成27年度(前期)資格認定者	上級	5人
	初級	4人
○平成27年度(後期)資格認定者	上級	1人
	初級	29人

平成27年度就職状況について

【地域別就職状況及び就職率】

区 分		卒業・修了者		卒業・修了者の内訳													
		進学者	臨床研修医	その他	就職者		三重県	愛知県	東海地方 (静岡・岐阜)	関東地方	近畿地方	その他	就職率(%) (就職希望者に占める就職者の割合)				
					就職者数	就職率(%)							(参 考) 平成26年度 就職率(%)	(参 考) 平成25年度 就職率(%)			
学部	人文学部	文学部	112 (81)	5 (3)	8 (4)	99 (74)	27 (19)	28 (26)	5 (4)	25 (15)	11 (8)	3 (2)	96.1 (97.4)	△ 0.9 (0.0)	97.0 (97.4)	94.2 (95.8)	
		経済学部	205 (96)	2 (0)	13 (4)	190 (92)	44 (25)	69 (27)	13 (3)	46 (28)	12 (5)	6 (4)	97.1 (98.8)	2.9 (1.2)	97.1 (98.8)	97.0 (95.0)	
	教育学部	学校教育課程	317 (177)	7 (3)	21 (8)	269 (166)	71 (44)	97 (53)	18 (7)	71 (43)	23 (13)	9 (6)	96.6 (98.8)	1.5 (0.7)	97.1 (96.1)	96.1 (95.4)	
		学校教育実践課程	142 (88)	11 (3)	6 (4)	125 (81)	65 (56)	25 (15)	3 (1)	5 (3)	7 (5)	2 (1)	99.2 (98.8)	0.7 (0.0)	98.5 (98.8)	100.0 (100.0)	
	教育学部	情報教育課程	17 (5)	3 (0)	1 (0)	13 (5)	3 (1)	3 (1)	3 (0)	2 (1)	4 (1)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	94.1 (100.0)	
		生涯教育課程	19 (13)	1 (0)	1 (0)	18 (13)	5 (2)	7 (6)	2 (1)	2 (1)	2 (2)	—	94.7 (100.0)	△ 5.3 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
	人間発達科学部	人間発達科学課程	26 (21)	4 (2)	3 (3)	19 (16)	10 (10)	6 (3)	3 (0)	1 (1)	2 (2)	—	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
		計	204 (127)	18 (5)	11 (7)	175 (115)	103 (69)	41 (26)	3 (2)	10 (8)	15 (10)	3 (1)	98.9 (99.1)	0.0 (0.1)	98.9 (99.0)	99.5 (100.0)	
	医学部	医学部	126 (43)	1 (1)	6 (0)	75 (72)	34 (32)	25 (25)	4 (4)	2 (2)	10 (9)	—	—	—	—	—	—
		計	205 (119)	1 (1)	9 (3)	75 (72)	34 (32)	25 (25)	4 (4)	2 (2)	10 (9)	0 (0)	100.0 (100.0)	1.2 (1.3)	98.8 (98.7)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
大学院	工学部	機械工学部	69 (4)	54 (4)	—	35 (0)	5 (0)	9 (0)	5 (0)	10 (0)	5 (0)	1 (0)	100.0 (100.0)	—	97.4 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		電気電子工学部	79 (0)	44 (0)	—	35 (0)	4 (0)	21 (0)	0 (0)	5 (0)	4 (0)	1 (0)	100.0 (100.0)	—	—	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	工学部	分子系統工学部	99 (27)	66 (12)	3 (1)	30 (14)	5 (1)	19 (10)	0 (0)	5 (2)	1 (1)	—	100.0 (100.0)	3.0 (0.0)	97.0 (100.0)	96.9 (100.0)	100.0 (100.0)
		情報工学部	49 (15)	21 (3)	—	28 (12)	8 (5)	5 (2)	2 (1)	5 (2)	7 (2)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	92.3 (85.7)	100.0 (100.0)
	理学部	物理工学部	51 (4)	24 (1)	2 (1)	25 (2)	1 (0)	14 (2)	1 (0)	10 (0)	2 (0)	—	100.0 (100.0)	8.3 (0.0)	91.7 (100.0)	90.2 (100.0)	100.0 (100.0)
		物理工学部	44 (1)	24 (1)	—	18 (0)	4 (0)	9 (0)	1 (0)	2 (0)	2 (0)	—	100.0 (100.0)	—	93.8 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	理学部	計	411 (51)	233 (21)	7 (2)	171 (28)	27 (6)	77 (14)	8 (1)	37 (4)	19 (3)	3 (0)	100.0 (100.0)	2.8 (0.0)	97.2 (100.0)	96.0 (96.6)	100.0 (100.0)
		資源環境工学部	64 (36)	20 (8)	1 (0)	43 (28)	14 (7)	13 (11)	1 (1)	9 (6)	5 (3)	1 (0)	97.7 (100.0)	1.2 (3.4)	96.5 (96.6)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	生物資源学部	生物環境工学部	92 (39)	28 (11)	4 (2)	58 (25)	18 (8)	21 (9)	6 (4)	7 (1)	4 (2)	2 (1)	98.3 (96.2)	△ 0.2 (△ 3.8)	98.5 (100.0)	92.6 (96.0)	100.0 (100.0)
		生物圏生命科学部	110 (42)	47 (15)	4 (2)	59 (25)	12 (5)	27 (11)	9 (6)	5 (1)	5 (2)	1 (0)	96.7 (96.2)	8.0 (2.9)	88.7 (93.3)	93.0 (96.0)	100.0 (100.0)
合計	1,403 (591)	354 (64)	59 (25)	870 (459)	279 (171)	301 (146)	49 (25)	141 (65)	81 (42)	19 (8)	97.6 (96.9)	1.8 (0.7)	97.1 (98.2)	96.9 (97.7)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
大学院	人文社会科学部	地域文化政策学部	5 (4)	5 (4)	3 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	—	—	—	100.0 (100.0)	14.3 (0.0)	85.7 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		社会学部	7 (4)	—	6 (4)	1 (0)	1 (0)	—	—	—	—	—	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	教育学部	教育学部	12 (8)	0 (0)	9 (6)	3 (2)	2 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	100.0 (100.0)	8.3 (0.0)	91.7 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	35 (25)	2 (2)	6 (6)	27 (17)	18 (10)	4 (2)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	90.9 (87.0)	100.0 (100.0)
	医学部	医学部	48 (6)	1 (1)	—	4 (2)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	—	—	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	60 (18)	1 (1)	16 (4)	43 (13)	31 (9)	3 (2)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	4 (1)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	工学部	機械工学部	55 (4)	1 (0)	—	53 (3)	1 (0)	22 (2)	3 (0)	18 (0)	8 (1)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		電気電子工学部	42 (0)	—	—	42 (0)	3 (0)	23 (0)	1 (0)	9 (0)	5 (0)	1 (0)	100.0 (100.0)	—	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	工学部	分子系統工学部	60 (9)	2 (0)	1 (0)	57 (9)	8 (4)	22 (3)	6 (1)	9 (1)	9 (0)	3 (0)	96.3 (100.0)	△ 1.7 (0.0)	100.0 (100.0)	96.9 (100.0)	100.0 (100.0)
		情報工学部	19 (1)	—	—	19 (1)	1 (1)	5 (0)	—	9 (1)	3 (3)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
合計	216 (20)	5 (0)	3 (2)	208 (18)	13 (5)	90 (6)	11 (1)	61 (2)	25 (4)	8 (0)	99.5 (100.0)	△ 0.5 (0.0)	100.0 (100.0)	99.2 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
大学院	経済学部	経済学部	5 (1)	5 (1)	1 (0)	4 (1)	2 (0)	1 (0)	—	—	—	—	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		システム工学部	7 (0)	—	3 (0)	4 (0)	3 (0)	—	—	—	—	—	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	資源環境学部	資源環境学部	12 (1)	0 (0)	4 (0)	8 (1)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計	25 (10)	2 (1)	5 (3)	18 (6)	7 (3)	3 (0)	1 (1)	5 (2)	2 (0)	—	100.0 (100.0)	7.1 (0.0)	92.9 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	共生環境学部	共生環境学部	24 (4)	1 (0)	5 (2)	18 (2)	2 (0)	8 (1)	1 (1)	6 (1)	4 (0)	—	100.0 (100.0)	4.3 (0.0)	95.7 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		生物圏生命科学部	37 (6)	1 (0)	4 (1)	32 (5)	5 (1)	13 (3)	2 (0)	5 (1)	5 (0)	2 (0)	100.0 (100.0)	2.9 (0.0)	97.1 (100.0)	100.0 (100.0)	93.1 (87.5)
	生物資源学部	計(博士前期)	86 (20)	4 (1)	14 (6)	68 (13)	12 (4)	24 (4)	3 (1)	16 (4)	11 (0)	2 (0)	100.0 (100.0)	4.2 (0.0)	95.8 (100.0)	97.3 (94.1)	100.0 (100.0)
		資源環境学部	4 (3)	—	3 (2)	1 (1)	1 (1)	—	—	—	—	—	100.0 (100.0)	—	—	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
	生物資源学部	共生環境学部	2 (0)	—	1 (0)	1 (0)	1 (0)	—	—	—	—	—	100.0 (100.0)	25.0 (0.0)	75.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
		計(博士後期)	10 (3)	0 (0)	4 (2)	6 (1)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	100.0 (100.0)	11.1 (0.0)	86.9 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)
地域イノベーション学部	地域イノベーション学部(博士前期)	7 (2)	0 (0)	1 (0)	6 (2)	2 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	85.7 (100.0)	△ 14.3 (0.0)	100.0 (100.0)	88.9 (100.0)	100.0 (100.0)	
合計	7 (2)	0 (0)	1 (0)	6 (2)	2 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	100.0 (100.0)	△ 14.3 (0.0)	100.0 (100.0)	88.9 (100.0)	100.0 (100.0)	
地域イノベーション学部	地域イノベーション学部(博士後期)	5 (0)	—	—	5 (0)	3 (0)	2 (1)	1 (1)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
合計	5 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	100.0 (100.0)	0.0 (0.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	100.0 (100.0)	
合計	443 (97)	12 (4)	0 (0)	57 (26)	374 (67)	92 (30)	124 (16)	16 (3)	85 (11)	41 (6)	16 (2)	98.5 (100.0)	0.7 (0.0)	98.8 (100.0)	98.2 (95.1)	100.0 (100.0)	

(注)博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得満期退学者を含む。

()内は、女子学生数を内訳で示す。

【産業別就職状況】

平成28年5月1日現在

区分		卒業・修了者		就職者		就職者の内訳													その他	

(注)博士課程、博士後期課程の修了者については、単位取得後期課程者を示す。

()内は、女子学生数を内数で示す。

VI SA(スチューデント・アシスタント)

SA(スチューデント・アシスタント)の 取り組みをふりかえって

-他者を支援すること、自分が支援されているということ-

SA(Student Assistant)の取り組みとは、キャリア・ピアサポーター上級資格を取得した学生を活用する学生支援施策である。本学では、仲間が仲間を支援するというこの相互支援の取り組みの本質は、“大学という一つの社会の中で様々な体験をすることは自身のキャリア(生き方)に寄与する”という観点から「キャリア・ピアサポーター」と呼称し、学生個々人のその人らしさを活かした、ピア(仲間)を支援することを推進している。キャリア・ピアサポーターには、初級資格と上級資格が設けられている。学生が支援に関連する様々な知識・技能・態度を高めることのできる講義・演習を一定数受講することで、これらの資格を取得できるという資格教育プログラムが設置されている。

キャリア・ピアサポーター上級資格を取得するまでに、学生は、他者に対する学習支援(ファシリテーション)を実践的に学ぶ講義・演習科目(学習支援実践)や、他者に対する心理的支援を実践的に学ぶ講義・演習科目(こころのサポート)を必修科目として、単位取得しなくてはならない。SAとなる学生の力量を保障するため、他者への配慮や支援方法などについて学ぶことになっている。SAとして、ただの授業準備や配布物の配布補助ではなく、受講生のグループディスカッションへの参加を促すファシリテーションや、受講生の学びをより深めるための支援が望まれている。本学では、教職員ではなく、学生同士、先輩だからこそできる学習支援、学生支援を目指しているのである。

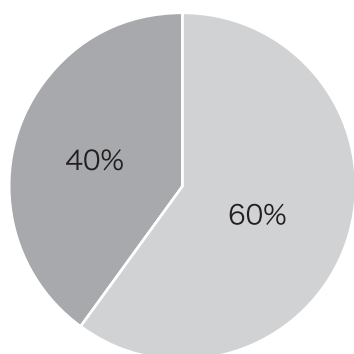
Table1は、平成27年度SA採用者及びSA活用授業である。SA活用授業の受講生は、ほとんどが学部1年生である。学部1年生にとって、SAである先輩は、自分と同じ学部あるいは他学部の先輩であり、どちらであっても等身大の大学生像としてモデルになる存在である。SAと関わることで、自身の数年後を想像し、目標の姿を考える機会となる。一方、SAである学生にとって、学部1年生と関わることで、数年前の自分の姿をふりかえり、自身の成長を考える機会となる。SAである学生は、SAとして学部1年生を支援することを通して、自分の成長に気づく支援を受けていると考えられる。

平成27年度は、学内の先生方のご理解のもと、平成26年度から新たに3科目増加した12科目でSAを活用した授業が行われた。SAを活用することによる授業の受講生への効果、さらにはSA自身への効果を先生方が感じてくださっていることを願いたい。さらに、平成27年度より、SAにSA活動のふりかえりレポート・アンケートを提出させている(Table2)。アンケート項目は、「4つの力」の成長感や、他者への支援、ファシリテーションに関わる項目である。学生による学習支援、学生支援が本当に効果的な制度であるのか、学生同士のどのような関わりがよりよい教育効果をもたらすのかについて、数量的な把握を今後も行う必要があると考えている。

●Table 1 平成27年度SA採用者及びSA活用授業

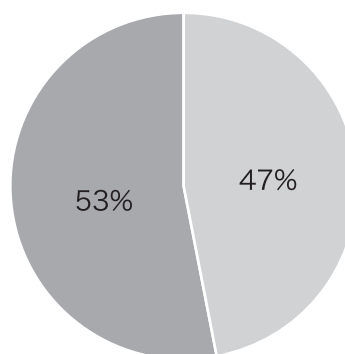
期間	授業名	学部	学年	人数
前期	学習支援実践A・B	人文	3年	1名
	AI-肯定的思考法-	人文	3年・3年	2名
	アントレプレナー論	人文	3年	1名
	ピアサポート実践	人文	4年	1名
後期	キャリアプランニング	教育	2年	1名
	AI-肯定的思考法-	人文	4年・2年	2名
	留学生支援実践	人文	3年	2名
	ピアサポート実践	人文	4年	1名
	広報誌編集実践	人文	4年	1名
	大学紹介実践	人文	4年	1名
	社会連携型実践	人文	3年・2年	2名
	知財学	人文	4年	1名
				合計 16名

1.SAの経験を通して、自分は成長したと思う



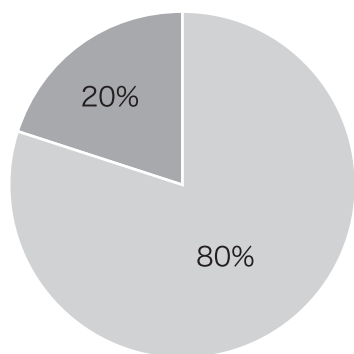
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

2.SAの経験を通して、いくつもの意見を調節する・整理する力がついた



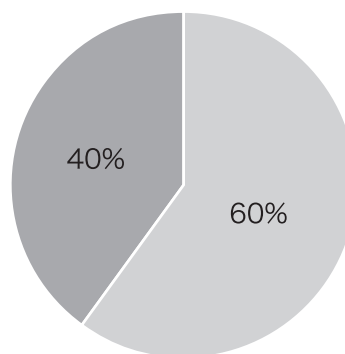
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

3.SAの経験を通して、状況や場に適したサポートを考えるようになった



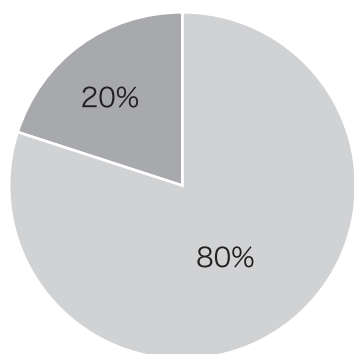
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

4.SAの経験は、他者の成長に関わることができる



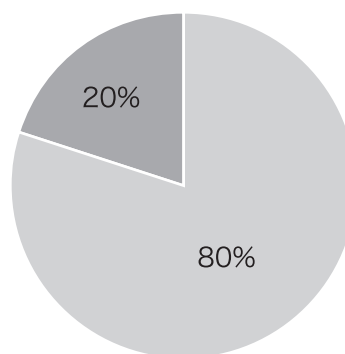
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

5.SAを経験することは、将来の自分のためになると思う



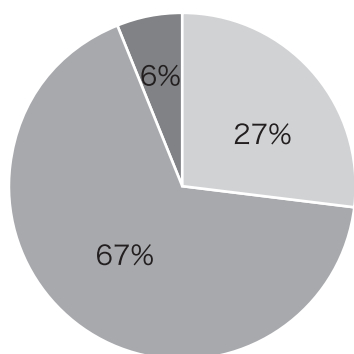
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

6.SAの経験を通して、相手に適したサポートを考えるようになった



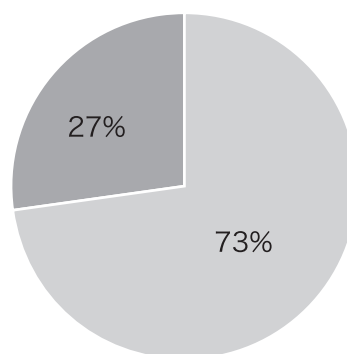
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

7.SAの経験を通して、必要なときに指摘や批判をする力がついた



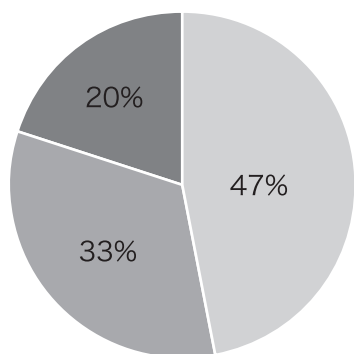
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

8.SAの経験を通して、多くのことを学んだ



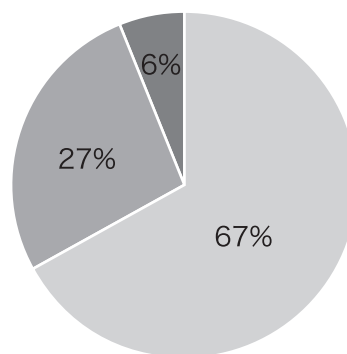
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

9.SAの経験を通して、「感じる力」がついた



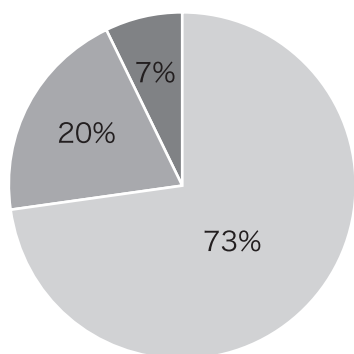
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

10.SAの経験を通じて、「考える力」がついた



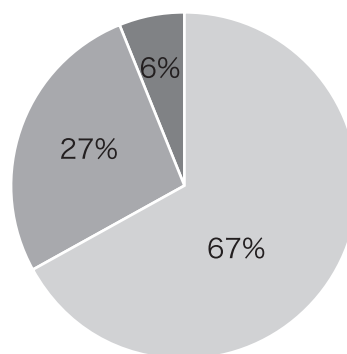
よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

11.SAを経験することは、将来の自分のためになると思う



よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

12.SAの経験を通して、相手に適したサポートを考えるようになった



よくあてはまる ややあてはまる
 どちらともいえない あまりあてはまらない
 まったくあてはまらない

Figure1～12 SAアンケート結果

キャリア・ピアサポーター 資格取得ガイド

NEXT STEP 2015



あなたもキャリア・ピアサポーターになってみませんか？



キャリアアップで
自信がつくよ！



能動的な
行動力や
身につくよ！

大学内で
職場体験が
できるから！



たくさんの人と
知りあいたいな

CAREER・PEER SUPPORTER



学生総合支援センター

資格取得を通して社会人としての「実践力」を身につけよう!



大学までの勉強では知識の獲得が最も重視されますが、実際に社会に出てみれば、

知識量だけでなく、獲得した知識に基づいた実践のための応用力が求められるようになります。

しかしながら、こうした能力を身につけるためには、ただ漫然と授業を受けるだけではなく、

学生時代に様々な取り組みに主体的に参加することで、経験を通して積み重ねていかなければなりません。

三重大学では、「生きる力」の養成や自身のキャリア形成につながる様々な授業科目を用意しています。

また、所定の科目を履修した学生に対しては、「キャリア・ピアサポーター初級資格」、

および「キャリア・ピアサポーター上級資格」を認定します。

「キャリア・ピアサポーター」資格を取得した学生は、授業補助等で教員のサポート役を担う

「SA (Student Assistant)」をはじめ、学生が同じ学生を横の関係で支援する「なんでも相談活動」や、

各種修学(授業)支援、アカデミックフェアやキャリアイベントといった各種イベント企画など、三重大学の活性化にも

つながる様々な活動に参加してもらうことで、その力を発揮することができます。さらには、こうして学内の様々な

現場を「職場」として体験することを通して、就職活動に不可欠な“対人関係能力”や“コミュニケーション能力”といった

能力を身につけていくこともできるでしょう。

あなたも、「キャリア・ピアサポーター」資格を取得して、一緒に三重大学を盛り上げていきませんか。

そして、あなた自身の「実践力」を伸ばしていきませんか。



資格をとって、 大学づくりに関わろう!

～仲間と一緒に大学を変える!自分も変わる!～

こんな人は
注目です!



就職活動が不安。
今から始められることって
ないかなあ。



短い大学生活。
もっとキャンパスライフを
楽しみたい!!



資格は興味あるけど
自力で取得するのは
大変そう…。



コミュニケーション
能力を伸ばしたいけど
人と接する機会が
あまりないなあ…。



例えば
こんな業務
やってます

資格を取得することで参加できる! 学内業務の一例

活躍の場が
広がるね!



※業務に参加するに当たって必要な資格要件は、その業務ごとに設定されています。詳しくは、各業務担当者に直接お問合せください。
※業務内容によっては、大学から謝金が支払われるものもあります。

授業補助

キャリア・ピアサポーターがSA (Student Assistant) としてスタートアップセミナー等のセミナー・実践形式の授業において、教員の指導のもと、受講している学生の補助をすることができます。授業中は教室内を巡回して、教員の指示を理解しきれていない学生をサポートします。

※『学習支援実践』という授業が前期に開催され、ファシリテーションについて学ぶことができます。

各種学生サポート

大学生活についての相談窓口を開設するなどの各種学生支援企画を実施したり、他団体等の学生支援企画の運営をお手伝いしたりします。

※相談窓口開設に当たっては、事前にカウンセラーより相談に関する研修を受けることができます。



他にもこんな業務に関われる チャンスがあります!

- 学生同士の交流や大学活性化、キャリア支援を目的としたイベントの開催
- 修学支援企画の立案・実施
- 学内の各種学生団体とのコラボレーション

その他、学内さまざまなところで力を発揮できます! 学生の声を聞いて、今何をする必要があるのか、メンバーみんなで考えていきましょう!



資格を取得
してからの
自分の変化

- ★自ら行動する力がつく!
- ★学部・学年を越える仲間と出会い、高めあえる。
- ★より充実した大学生活に!!

申請ってどうするの？

資格認定までの ステップ

申請はとっても簡単！
気軽にチャレンジ
してみよう！



STEP 1

キャリア・ピアサポーター資格申請書および
成績証明書を提出

定められた時期までに、キャリア支援センター(就職支援チーム)に提出します。
提出場所: 総合研究棟 II 1階キャリア支援センター(就職支援チーム)

2015年度における資格申請方法

前期末 申請	申請書締切 8月6日(木)	後期末 申請	申請書締切 2月2日(火)
	成績証明書締切 9月9日(水)		成績証明書締切 4月4日(月)

対象科目は？

資格取得に関わる科目群

実践につながる
科目がいっぱい！



初級資格

授業科目	初級必修科目(授業テーマ)	単位
スタートアップセミナー	スタートアップセミナー	2
キャリアプランニング	キャリアプランニング	2

※下記「実践科目」から1科目を選択のこと

上級資格

授業科目	上級必修科目(授業テーマ)	単位
学習支援実践	学習支援科目(学習支援実践A・学習支援実践B)	2
こころのサポート・AI ポジティブ思考法演習	心的援助科目(「こころのサポート」あるいは「AI ポジティブ思考法演習」)	2

※下記「選択科目」から2科目を選択のこと

選択科目

授業科目	授業テーマ	単位	授業科目	授業テーマ	単位
留学生支援実践	留学生支援実践	2	広報実践	広報誌編集実践	2
障がい学生支援実践	障がい学生支援実践	2	広報実践	大学紹介実践	2
ピアサポート実践	ピアサポート実践	2	キャリアプランニング	キャリアイベント実践	2
学生生活支援実践	学生生活支援実践	2	社会連携型実践	社会連携実践A	2
授業科目	授業テーマ	単位	授業科目	授業テーマ	単位
キャリアプランニング	キャリアインターンシップ	2	地域と仕事	地域の仕事を知る	2
キャリア形成	キャリア形成	2	アントレプレナー論	起業マインドの醸成	2
キャリア形成	仕事・社会を知る	2	知財学	発明・知財学入門	2

※選択必修科目や選択科目は毎年変更されますが、いずれの年度に修得した単位であっても認められます。

STEP 2

キャリア・ピアサポーター 資格認定委員会による 審査

学生総合支援担当副学長、キャリア支援センター長、キャリア教育担当教員等から成る認定委員会が審査します。

STEP 3

基準を満たす学生に 対して、初級資格、または 上級資格認定証を授与

資格認定者の発表は、前期末申請分については9月下旬、後期末申請分については次年度4月上旬を予定しています。

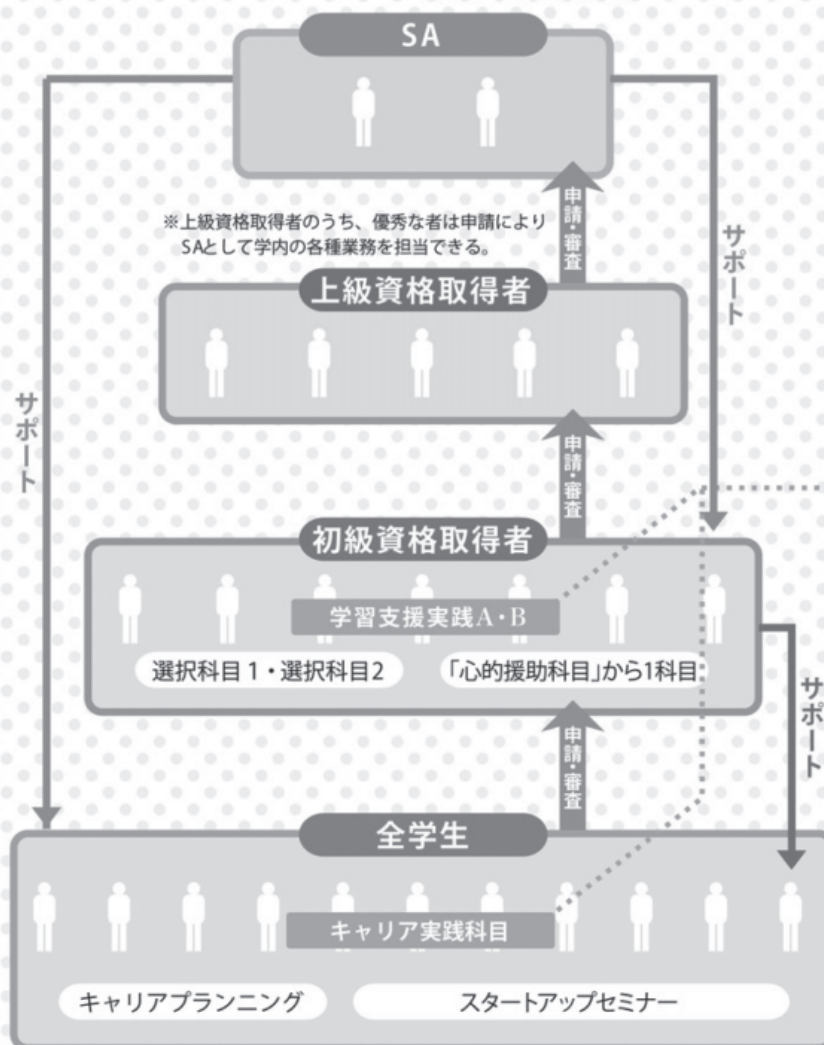
資格認定基準

- 資格認定要件となる授業において単位を取得していること。
- キャリア・ピアサポート活動に従事するに当たり、十分な意欲と素養を備えていること。

ステップ アップの 仕組みって？

キャリア・ピアサポーター 資格教育プログラム

●SA (Student Assistant) … 教員の要請により授業補助等の業務を担う学部学生のこと



キャリアUPで
自信をつけよう！



キャリア実践の各科目や「学習支援実践」を受講した学生が、資格取得により次年度にはSAとして、受講生のサポートに入ることができます。

キャリア実践科目



例) 学習支援実践A



わたしのキャリア教育における学びの軌跡

あなたの教養教育におけるキャリア教育の履修記録をつけましょう。CPS資格申請にも必要な資料です。

平成
27年度
(前期)

開講曜日	開講時限	授業科目名	授業テーマ	授業担当者	取得単位	成績
例) 水曜	9・10限目	キャリアプランニング	キャリアインターンシップ	長谷川岳雄	2	9

平成
27年度
(後期)

開講曜日	開講時限	授業科目名	授業テーマ	授業担当者	取得単位	成績
例) 金曜	3・4限目	広報実践	大学紹介実践	後藤綾文	2	9

平成
28年度
(前期)

開講曜日	開講時限	授業科目名	授業テーマ	授業担当者	取得単位	成績
例) 水曜	9・10限目	キャリアプランニング	キャリアインターンシップ	長谷川岳雄	2	9

平成
28年度
(後期)

開講曜日	開講時限	授業科目名	授業テーマ	授業担当者	取得単位	成績
例) 金曜	3・4限目	広報実践	大学紹介実践	後藤綾文	2	9

CPS資格を取得した先輩からのメッセージ

私はSAとしてこれまで4つの講義を担当してきました。

受講生のほとんどは1年生で、初めてのプレゼンなどはユニークなものも少なくありません(笑)しかし、助言をしたり一緒に考えたりしていく中で、彼らは大きく成長していきます。最終プレゼンのときは毎回少し感動したりしています。「1人の人間の成長に携わることが出来る」のがSAとして活動することの最大の魅力だと思います。就職活動のネタになったりして... (小声)
(工学部 3年 Kくん)

私がCPS資格を取ろうと決めたきっかけは、教師に必要とされる力を身に付けたいという想いからです。CPS資格を取る上で、“支援する”ということの難しさを体感しました。しかし苦労した分だけ自分に身についた力は大きく、同時に支援することに対する喜びも得ました。子ども達を支援する教師は素敵な仕事だなと改めて思います。教師を志す方、誰かの支えになりたい方、ぜひCPS資格を取ってみませんか?
(教育学部 2年 Iさん)

相談活動や交流イベントの企画運営、授業補助など行っています。SAでは教員と受講生の橋渡しができることが魅力です。時にはSA同士で相談し合い、受講生の有意義な学びを促進します。挑戦する舞台が充実していて、仲間との出会い、やりがいや目標の発見、自身の成長がありました。教職員の方との連携や人とのつながりを大切にし、持ちつ持たれつの関係で支え合ってここまで来ました。支え合い、ともに生きる大切さを実感しました。
(人文学部 4年 Kくん)

CPS資格取得に必要な授業は、実践系の授業が主になります。実践系の授業を履修することで、人前で発表する機会を何度も与えていただけるので、そういった場面でも緊張せずに話すことができるようになりますと思います。実際に私も昔は人前で話すのに、とても緊張し上手く喋ることができませんでした。実践の授業で何度も人前での発表を経験し、今では大勢の人の前で発表するのさほど緊張せずに話すことができるようになりました。また上級資格を取得することによって、SAとして実践系の授業の補助をすることができるようになります。実際に自分もSAとしてピアサポート実践という授業の補助を務めました。SAの経験を通して、受講生を一つにまとめることや、活発な議論をしてもらうための声かけ・アドバイスをすることの大変さが分かると同時に、1回1回の授業内での受講生の変化を間近で見ることができ、またともに成長することができるといった達成感も味わうことができました。
(生物資源学部 2年 Kくん)

新しい挑戦、得意なことでの飛躍、キャリア教育の中での多様な経験が皆さんの未来への扉を開きます。



三重大学学生総合支援センターホームページ
<http://www.mie-u.ac.jp/life/>



発行／平成28年7月
国立大学法人 三重大学
問い合わせ先／学生総合支援センター
〒514-8507 津市栗真町屋町1577
TEL:059-231-9679

三重大学life

click